

リアホナ

アダムの時代から
わたしたちの時代へ
向けての教訓,
10ページ

友達からの圧力に対処する方法,
26, 28ページ

機能する家族を築く6つの方法,
36ページ

友達を連れて行きましょう,
「フレンド」10ページ



成人

- 2 **大管長会メッセージ**
最初の示現が結んだ実
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 25 **家庭訪問メッセージ**
女性の神聖な役割を理解する
- 10 **特集**
10 **神の偉大な計画**
L・トム・ベリー長老
いずれの福音の神権時代にも、わたしたちに対する重要な教訓があります。
- 18 **新会員が強さを保てるよう助ける**
スーザン・W・タナー
会員同士の定着と再活発化の業は、愛と喜びの働きです。
- 22 **新しい改宗者として実りを得る**
ゲイル・S・イリフ
福音の中で強くなるために改宗者にできる3つのこと。
- 32 **託児で教える, 家庭で教える**
マーガレット・S・リファース
新しい託児の手引きは、教師にとっても親にとってもすばらしい資料です。
- 36 **機能する家族**
ジェームズ・D・マッカーサー
家族がよく機能するための6つの原則。
- 44 **シリーズ**
44 **末日聖徒の声**
バプテスマ, 神権の祝福, 改宗, 1杯の紅茶
- 48 **今月号の活用法**
家庭の夕べのためのアイデア,
今月号に採り上げられているテーマ,
家庭の夕べの成功例

表紙
表紙——「アダムとエバ」ダグラス・フライヤー画
裏表紙——「主はアブラハムに御姿を現された」キース・ラーソン画

青少年

- 特集**
8 **ジョセフを演じる** リカルド・レイス・ピヤルタ
わたしの人生を変えた寸劇
- 16 **たやすいことではありません** ケリー・ウィリアムズ
家族で唯一の教会員であっても、わたしは独りぼっちではありません。
- 28 **だれにも分からないよ** スタンレー・G・エリス長老
誘惑されたとき、そのうそを信じてはいけません。
- 40 **世代** リチャード・M・ロムニー
福音に忠実であれば、家族は世代から世代にわたって守られます。
- シリーズ**
7 **預言者ジョセフ・スミスの教え——一致**
- 15 **ポスター——少し見ているだけ?**
- 26 **質疑応答**
アルコールや麻薬を勧められはしないかと心配です。誘いを断ったり、相手を怒らせたりしたくありません。言いなりにならないようにするにはどうすればいいですか。



末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)
大管長会:トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、
M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、
リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、
ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、
クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン

編集長:スペンサー・J・コンディ

顧問:ゲリー・J・コールマン、ケネス・ジョンソン、菊地良彦、
W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

編集主任:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

共同編集者:ライアン・カー

編集補佐:スザン・パレット

編集スタッフ:マシュー・D・フリットン、デビッド・A・エドワーズ、ラ
リー・ポーター、ガート、キャリー・カステン、ジェニファー・マ
デー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカー
ク、ジュディス・M・パーラー、ジョシュア・J・パーキ、チャド・E・
ファレス、ジャン・ピンボロ、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サー
ル、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイスマー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・J・カンペン

制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ

デザイン/制作スタッフ:カリ・R・アロウ、コレット・ネベカー、ハワード・G・ブ
ラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリス
テンセン、キム・フェンスターマカー、キャスリーン・ハワード、エリック・P・
ジョンソン、デニス・カービー、スコット・M・ムーイ、ギニー・J・ニルソン

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター:ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ
クライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ
ア語、ギリシア語、キルギス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェ
ーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、チエゴ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日
本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィ
ジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、
ポルトガル語、マラヤラム語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト
ニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において
一時的に、また非営利目的で使用される場合は複写することができます。
視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場
合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載
されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音ライブラリ)をクリック
してください。その他の言語は「Languages」(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年2月号第33巻第2号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN
1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple
Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は
年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み/定期刊行物郵送料
はソルトレークシティで納められています。)所変更は60日前にご連絡く
ださい。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧発送先を明記してください。合衆
国とカナダでの購読申し込みは、下記のソルトレーク配送センターにお送りく
ださい。購読に関するお問い合わせ:1-800-537-5971。クレジットカード
(ビザ、マスターカード、アメリカンエクスプレス)でのご注文は電話で承ります。
(カナダ郵便情報:出版承認番号40017431)

郵便局長殿:住所変更がございましたらお知らせください。連絡先:Salt
Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,
Salt Lake City, UT 84126-0368

こ ども 子 供

F2 よげんしゃ こゑ
預言者の声——いやすための助け
トーマス・S・モンソン大管長

とく しゅう
特 集
F8 アダムとエバのように キンバリー・リード

かつどう ひ しょうたい
F10 活動の日への招待 マリアンヌ・ダール・ジョンソン

せんきょうし いま
F14 宣教師に今なれる パッツィー・パーソン

シリーズ
F4 分かち合いの時間——わたしは強い「わ」になります
シェリル・エスプリン

F6 よげんしゃジョセフ・
スミスのしょうがいから——
かみの力があらわされた日

とくべつ しょうごん しん かいしん
F13 特別な証人——真の改心とは
リチャード・G・スコット長老

F16 いろをぬりましょう



「フレンド」表紙
写真加工/ラウレニ・アデマール・フォォェット



こんげつごう
今月号のどこかに隠れている
ウクライナ語のCTRリングを
さが
捜しましょう。
えら ただ
● 選べ、正しいページを!



読者からの便り

御霊がさらに増し加わる

わたしには二人のすばらしい子供と、協力的な夫がいます。この不確かな世の中にあって『リアホナ』は確かにわたしたち家族にとって現代の羅針盤となっています。家庭の夕べで大管長会のメッセージや霊的な記事を読むと、家庭に主の御霊がさらに増し加わります。それによりわたしたちは救い主イエス・キリストの贖いの力を感じ、平安を見いだします。

フィリピン、クリサンタ・エスタヨ・バディーラ

結婚における謙虚さと赦し

2008年1月号の「結婚生活かプライドか」という記事は、結婚の聖約に含まれる責任を十分に理解するのに役立ちました。婚約者とともに記事を読み、二人の関係の中に謙虚さと赦しという大切な原則を取り入れる目標を立てました。わたしは、二人が将来住む家にこの記事の額に入れて飾ろうと考えています。そうすれば、このメッセージをともに読んで愛が強まるのを感じたときの、あの心地よい御霊をいつも覚えていられるでしょう。

ブラジル、クレビ・ナシメント



最初の示現が 結んだ実

大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

ドイツで過ごした少年時代、わたしは様々な場所と様々な状況の中で教会に集いました。奥まった粗末な小部屋や、驚くような大邸宅、また非常に近代的で機能的な教会堂もありましたが、どの建物にも共通する一つの重要なことがありました。それは、神の御霊がそこにあり、会員が一つの家族として支部やワードに集うとき、救い主の愛が感じられたということです。

ツピッカウの礼拝堂には、古い空気式オルガンがありました。毎週日曜日には、青少年がオルガンに空気を送るふいごの重いレバーを上げ下げする役目を与えられていました。わたしはアロン神権者になる前から、時々この大切な役目を助ける特権にあずかりました。

会衆が大好きな回復の賛美歌を歌っている間、わたしはオルガンの空気が途切れないように全力でレバーを上げ下げしました。オルガン奏者の目を見れば、わたしの仕事が満足いくものか、もっと空気を送らなければならないか、はっきりと分かりました。この責任の重さと、オルガン奏者が寄せてくれた信頼をいつも誇りに思いました。そして責任を与えられ、この偉大な業の一端を担っていることにすばらしい達成感を抱いていました。

この責任にはもう一つ特権がありました。送風係の席からは、礼拝堂の正面を飾るステンド

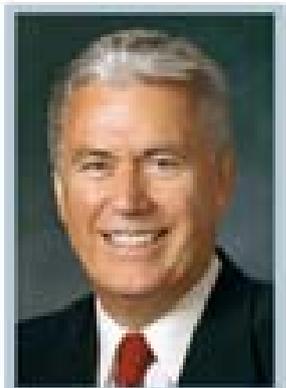
グラスの窓が見渡せたのです。ステンドグラスには、ジョセフ・スミスが聖なる森にひざまずいて天を仰ぎ、光の柱を見上げている、最初の示現の場面が描かれていました。

会衆が賛美歌を歌っているときや、会員が話や証をする間、わたしはよく、歴史に残るこの神聖な瞬間を描いたステンドグラスを見ていました。そして、ジョセフが天の御父の手に使われる者として定められ、知識と証と神聖な教えを受けている様子を心に描いていました。

この信仰深い少年は、勇気をもって天の御父に熱心に祈る決断をし、御父は愛をもってその祈りにこたえられたのです。このステンドグラスに描かれた聖なる森の美しい情景を見ていると、わたしは特別な御霊を感じました。

御霊の証

わたしは第二次世界大戦後のドイツに住む一人の少年でした。最初の示現から100年以上もたった時代に、バルマイラから何千キロも離れた廃虚となった町に暮らしていたのです。しかし聖霊の普遍的な力によって、ジョセフ・スミスが確かに神とイエス・キリストにまみえて、御二方の声を聞いたことを心と思い確信しました。神の御霊は、年若いわたしの心を鼓舞するとともに、その神聖な瞬間が世界に広がる業の始まりとなり、「全地に満ちるまで転がり進



聖霊の普遍的な力によって、ジョセフ・スミスが確かに神とイエス・キリストにまみえて、御二方の声を聞いたことを心と思い確信しました。わたしは聖なる森での神聖な経験に関するジョセフ・スミスの証を信じました。そして今では確信しています。



このように、
ジョセフ・
スミスの
最初の示現は、
個人と家族の生活、
ひいては全人類に
祝福をもたらします。
わたしたちは
預言者ジョセフ・スミスの
証を通して
イエス・キリストを
信じるように
なるのです。

む」ことを確信させてくれたのです(教義と聖約 65:2)。わたしは聖なる森での神聖な経験に関するジョセフ・スミスの証を信じました。そして今では確信しています。神は再び人類に語られたのです。

当時を振り返ると感謝の念がわいてきます。実に多くの友人が、回復されたイエス・キリスト教会についての証を築けるよう、年若いわたしを助けてくれたからです。彼らの証を信じることから始めたわたしは、やがて心と思いに御霊による神聖な証を受けることができました。ジョセフ・スミスもわたしを支えてくれた人の一人です。ジョセフのキリストに対する証は、救い主に対する自分の証を築くうえで助けとなりました。ジョセフ・スミスが神の預言者であるという御霊の証を認識する前から、わたしの幼い心は、ジョセフは神の友達なのだから、わたしの友達でもであると、ごく自然に感じていました。ジョセフ・スミスを信頼することができました。

聖文には、神を求め、愛し、戒めを守る者には御霊の賜物たまものが与えられると記されています(教義と聖約46:9参照)。

「すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない。賜物は多くあり、各人に神の御霊によって一つの賜物与えられるのである。

ある人にはある賜物、またある人には別の賜物が与えられて、すべての人がそれによって益を得られるようになっている。」(教義と聖約46:11-12)

今日、わたしは自分の少年時代の証が、預言者ジョセフ・スミスの証や、「イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを……聖霊によって」知っていた教会の多くの友人によって強められたことを実感しています(教義と聖約46:13)。すばらしい模範と、思いやりにあふれた愛、そして助けの手は、いっそうの光と真理を切望していたわたしに、聖文に記されたもう一つの特別な御霊の賜物を与えてくれました。「ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永遠の命が得られるように、彼らの言葉を信じる事が許される。」(教義と聖約46:14) 何とすばらしく、貴い賜物でしょう。

信仰の賜物

心からへりくだれば、この賜物を受ける祝福にあずかって、信仰を持ち、まだ見ていない真実のことを待ち望めるようになります(アルマ32:21参照)。主の御霊を妨げようとせず、聖文と生ける預言者の言葉を試すならば、たとえ

信じようとする望みを持つだけであっても、心は広げられ、理解力に光が注がれるのです(アルマ32:26-28参照)。

救い主は、その偉大な執り成しの祈りの中で、この憐れみ深い原則を世のすべての人に説明されました。使徒だけでなく、すべての聖徒、そして今日あらゆる地に住むわたしたちのためにもささげられたこの祈りの中で、主はおっしゃいました。

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ17:20-21、強調付加)

このように、ジョセフ・スミスの最初の示現は、個人と家族の生活、ひいては全人類に祝福をもたらします。わたしたちは預言者ジョセフ・スミスの証を通してイエス・キリストを信じるようになるのです。人類の歴史を通じて、預言者や使徒たちは、ジョセフのように神の訪れを経験しています。モーセは顔を合わせて神にまみえ、自らが「[神の]独り子にかたどられている」神の子であることを知りました(モーセ1:6)。使徒パウロは、ダマスコへ向かう途中で復活されたイエス・キリストにまみえたことを証しました(使徒26:9-23参照)。この経験は、パウロが主の偉大な宣教師の一人になるきっかけとなりました。また、カイザリヤで裁判にかけられていたパウロが天の示現について証したとき、強大な力を持つアグリッパ王は「おまえは……わたしをクリスチャンにしようとしている」と言いました(使徒26:28)。

ほかに、多くの古代の預言者がキリストについて力強い証を述べています。このような現れは皆、古代・近代を問わず、信じる人をすべての義と希望の神聖な源である神、すなわち天の御父とその御子イエス・キリストへと導きます。

神がジョセフ・スミスと語られたのは、戦争や戦争のうわさ、自然災害や個々人の苦しみの多い、不確かで不安定な時代

にあっても、神のすべての子供たちを御自身の憐れみと愛によって祝福するためでした。救い主はおっしゃいました。「見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのものに来る者は幸いである。」(3ニーファイ9:14)そして、この招きを受け入れる人はだれでも、「たぐいえない豊かな神の愛に取り巻かれ」るのです(アルマ26:15)。

預言者ジョセフの証と最初の示現が真実であることを信じ、熱心に研究し心から祈るなら、「1820年の早春、美しい晴れた日」にジョセフと語られた世の救い主について確固とした信仰を持てるようになるでしょう(ジョセフ・スミス—歴史1:14)。

イエス・キリストを信じる信仰と、主とその普遍的な贖いに対する証は、単に神学的に価値ある教義ではありません。むしろ、そのような信仰は普遍的な賜物であり、人種、肌の色、言語、国籍、あるいは社会経済的状況を超越した、世のすべての人にとってすばらしいものです。分別を使ってこの賜物を理解しようとする人もいるかもし

れません。しかし、信仰の賜物の力を最も深く感じる人は、この祝福を進んで受け入れようとする人々です。その祝福は、心から悔い改める道を選んで、神の戒めに従うことで、汚れない清い生活を送ることから得られます。

預言者に対する感謝

預言者ジョセフ・スミスを覚え、敬うとき、わたしは感謝の気持ちでいっぱいになります。ジョセフは、善良、正直、謙遜であり、知性と勇氣に富んだ心の優しい少年で、神への揺るぎない信仰を持っていました。そして高潔さを備えていたのです。その謙遜な祈りはこたえられ、天は再び開かれました。ジョセフ・スミスは実際に示現を見ました。彼はそれを知っていました。神がそれを御存じであることをジョセフは知っていました。否定することはできなかったのです(ジョセフ・スミ



写真加工・マシュー・ライアー。「主はよみがえられたデル・パリン画



イエス・キリストを信じる信仰と、

主とその普遍的な贖いに対する証は、単に神学的に価値ある教義ではありません。

むしろ、そのような信仰は普遍的な賜物であり、人種、肌の色、言語、国籍、あるいは社会経済的状况を超越した、世のすべての人にとってすばらしいものです。

スー歴史1：25参照)。

ジョセフ・スミスの働きと犠牲により、天の御父と、その御子であり、贖い主、救い主であるイエス・キリストを、ほんとうの意味で知ることができるようになりました。そして聖霊の力を感じ、わたしたち神の子のために用意された御父の計画を知ることができました。わたしにとって、これらは確かに最初の示現が結んだ実です。

幼いときに、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、示現によって父なる神と御子イエス・キリストにまみえたことについて、純粋な信仰が得

られたことを感謝します。ジョセフ・スミスは、神の賜物と力によってモルモン書を翻訳しました。これまで何度もその証を確認してきました。

イエス・キリストが確かに生きておられ、メシヤであられることを証します。わたしには、イエス・キリストが全人類の救い主、贖い主であられるという個人的な証があります。その知識は、神の御霊の言い尽くせない平安と力を通して与えられました。わたしの心からの願いは、永遠にわたって清く忠実に主に仕えることです。■

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。いくつかの例を以下に紹介します。

1. 「麗しき朝よ」(『賛美歌』18番)を家族とともに歌う。最初の示現の絵を見せる。絵に何が描かれているか家族に尋ねる。この記事の最初の部分を読み、ウークトドルフ管長がスタンドグラスの窓に描かれた最初の示現の光景を見て何を感じたかを話し合う。

2. 家族とともに記事の最後の項目を読み、ウークトドルフ管長が述べている最初の示現の真理を家族に挙げてもらう。最初の示現が結んだ実としてどのよ

うなものがあると感じるか、家族に尋ねる。ジョセフ・スミスについてどのような気持ちを抱いているか話すよう、家族に勧める。

3. 訪問前の準備として、最初の示現に関するジョセフ・スミスの言葉を読む(ジョセフ・スミスー歴史1：11－20参照)。最初の示現の経験について話し、幼い子供たちに示現の絵を描いてもらう。「神がジョセフ・スミスと語られたのは、……神のすべての子供たちを御自身の憐れみと愛によって祝福するためでした」というウークトドルフ管長の言葉について話し合う。子供たちに、描いた絵を説明してもらう。

一致

ジョセフ・スミスは、一致することからもたらされる力を理解していました。

初期の教会において、主は末日聖徒に一つとなるよう命じられました(教義と聖約38:27参照)。神の業を成し遂げるために、預言者ジョセフ・スミスは生涯を通じて、聖徒を組織し、一致させました。聖徒を教え、導き、さらには、シオンの大義のために時間と才能、そして財産をささげるよう奨励しました。一致に関するジョセフの教えをここに幾つか紹介します。

神の業を行う方法

「そのような和合一致の精神が、この国でも外国でも、……教会全体にあるのを知って、わたしたちは心から喜んでいきます。なぜならこの原則により、そして力を合わせることによって、わたしたちは神の目的を達成できるようになるからです。」

「一致は力です。……いと高き御方の聖徒たちはこの原則を常に大切にするようにしてください。そうすれば最も栄光に満ちた祝福が、聖徒個人にだけでなく、教会全体にももたらされるに違いないのです。」

利己的な感情を取り除く

「偉大な出来事は聖徒たちの個々の努力に懸かっており、聖徒たちは終わりの時の大いなる業を成し遂げるために、わたしたちや聖なる御霊^{みたま}とともに働く者として召されています。聖徒たちはそのことを忘れてはなりません。……あらゆる利己的な思いをただ覆い隠すだけでなく、完全に追い払ってください。」

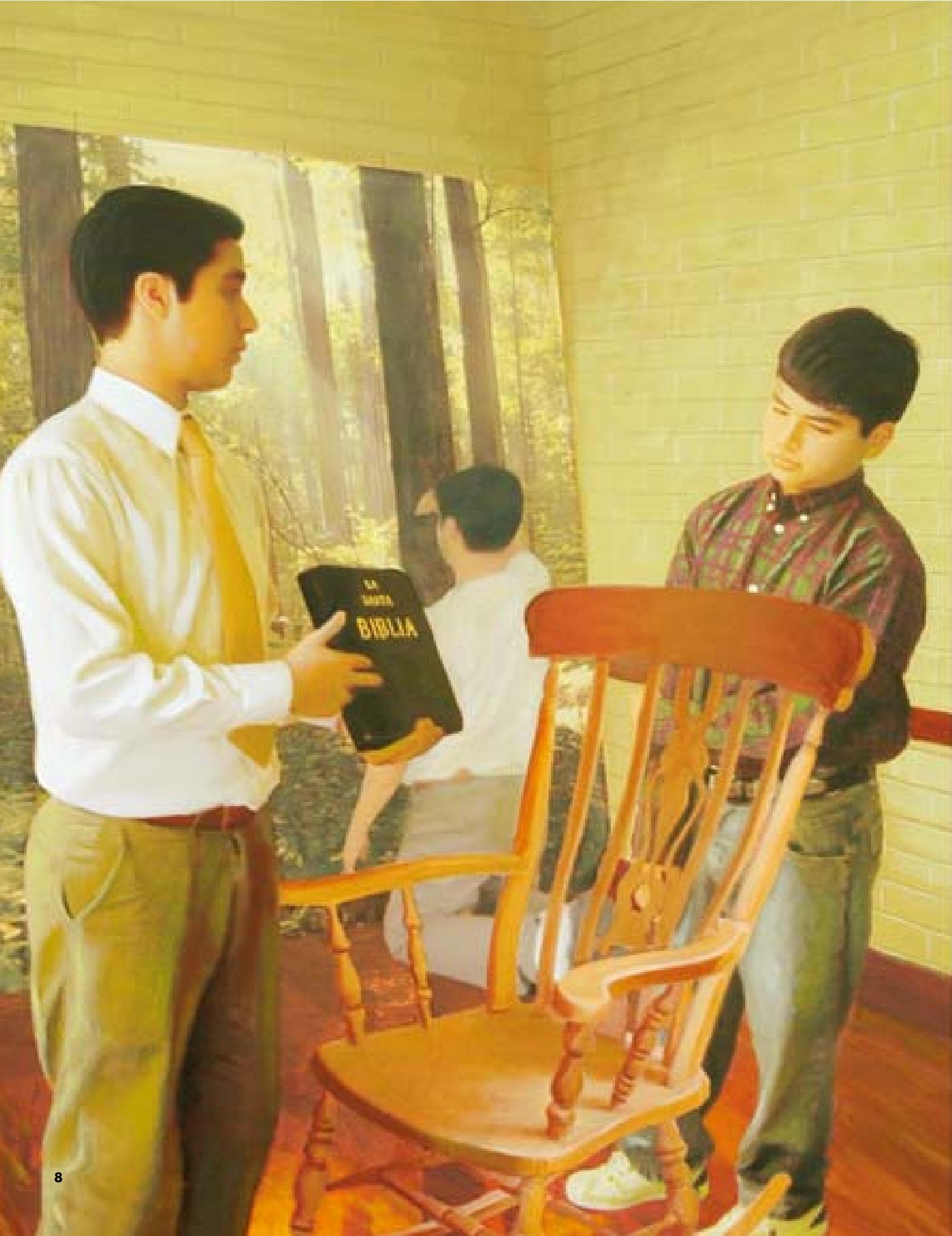
「わたしたちは自分自身のためにではなく、神のために生きなければならないことを理解しましょう。そうすることによって最も大いなる祝福が、この世においても永遠にわたっても、わたしたちにとどまるでしょう。」

一致によってもたらされる祝福

「力を合わせて働き、努力を結集させなければ、終わりの時の大いなる業を成し遂げることができません。……そうするときにはわたしたちは物質的にも霊的にも大いなる恵みを受け、天の祝福が途絶えることなく注がれるに違いないでしょう。」■

『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(神権会と扶助協会の教科課程) 274、275 - 276、278から抜粋





ジョセフを演じる

ジョセフ・スミスの物語を演じることに、
わたしはあまり乗り気ではありませんでした。
しかし、わたしの人生を変える何かが
起こったのです。

リカルド・レイス・ビヤルタ

わたしは生涯を通じて、ジョセフ・スミスの物語について教わってきました。ジョセフの物語を信じたのは、教えてくれた人たちを心から信頼していたからです。預言者ジョセフに関して否定的なことを言う人がいたら、ジョセフを弁護しました。しかし、ジョセフについて証あかしを持っていたからではなく、原則に基づき、そうすべきだと知っていたからにすぎませんでした。

そのようなわたしの態度が一変したのは、所属していたワードが、エルサルバドル・サンサルバドル・イロパングステークの文化行事で特別な演目を披露するよう割り当てを受けたときでした。友人たちとわたしは、ユーモアのある寸劇が最適だと考えました。しかし若い男性の会長はわたしたちに同意せず、預言者ジョセフ・スミスの経験を幾つか劇にすることを提案しました。

この提案にわたしたちは興味をそそられませんでした。ほかの出演者が皆愉快的踊りや寸劇を演じることを知っていた友人たちやわたしは、何か変わったことをするのが決まり悪かったのです。古めかしい衣装を着けたわたしたちがきまじめな演技をするのを見たら、みんな笑うに違いないと思いました。以前ほかの機会にそのようなことが起きるのを見たことがありました。正直言うと、笑った側の一人だったこともあります。しかし若い男性の会長は、わたしたちがジョセフ・スミスの物語の準備に熱心に取り組むなら、笑う人などいないと断言しました。

そういうわけで、その後2か月間、わたしたちはジョセフ・スミス物語の準備に没頭して過ごしました。『最初の示現』の映画を繰り返し何度も見て、せりふも詳細もすべて覚ええました。また、巨大な背景のセットとして「聖なる森」と広々とした空を描きました。小道具として使うために、金版を作り、とても大きいサイズの聖書とロッキングチェアを見つけました。ピアノ演奏担当の友人が賛美歌「麗しき朝よ」(『賛美歌』18番)を録

音し、さらに森の中の鳥のさえずりやジョセフが落ち葉を踏む足音も録音しました。そして配役を決めるためにくじを引くと、ジョセフ・スミスを演じる役がわたしに当たりました。

上演当日、予想どおり、わたしたちはまじめな演目を披露する唯一のグループだと分かりました。そこで出番の前に皆で集まり、すべてが順調に運ぶよう祈りました。その後、わたしの人生を変える何かが起こったのです。

わたしがステージに登場する場面になりました。目の前にある森の背景画のセットに向かって歩いて行くと、録音した賛美歌が低く流れているのが聞こえました。演じるにつれて、胸の中に燃えるようなものを感じました。口ではうまく表現できませんが、自分が再現している出来事が実際に起こったことであり、自分よりほんの少し若い一人の少年が実際に経験したことであると理解しました。祈るシーンでひざまずいたとき、わたしは口を開くことができませんでした。何か悪い影響を受けたせいではありません。正確に言えば、泣き声をもらさずにせりふを言うことができなかつたのです。偉大な力がわたしの心に、ジョセフの物語は真実であると証しました。ジョセフ・スミスについて主に心から感謝するとともに、ジョセフに対する強い愛がわたしの中に芽生えました。

目を開けたとき、観客の幾人かもまた目に涙を浮かべているのが分かりました。わたしたちが演じている事柄が神聖な真実であることを、御霊みたまが彼らに証していることに何の疑いも持ちませんでした。

後に宣教師として働いたとき、わたしはそれまでどおり教会や預言者ジョセフ・スミスについて弁護しました。しかし原則に基づいてそうしたわけではありません。わたしがジョセフ・スミスについて証したのは、彼自身が語ったように「わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定でき……なかつた」からです(ジョセフ・スミス—歴史1:25)。■

神の偉大な計画



十二使徒定員会
L・トム・ペリー 長老

いずれの神権時代にも特別な教訓があり、わたしたちは永遠の行く末に備えるうえで、その教訓を自分の計画に取り入れることができます。

速いペースで物事が進む今日にあって、あまりに多くの人々が十分な計画や備えをしないまま、人生を運に任せてしまっています。学生に専攻を尋ねても、「まだ決めていません。後で決めるつもりです」という答えが返ってくるがよくあります。しっかりとした財政計画を立てずに収入を越す生活をしたために、借金というわなに陥ってしまった家族や個人を見てきました。活動や習い事、クラブ、スポーツなどに熱心になりすぎる人もいます。そのような組織に参加することは確かに良い場合もありますが、しっかり計画しないと夢中になりすぎてしまいます。うまく計画を立てなかったことで永遠の行く末を見失うことになるのです。

聖文には計画の究極の例が記されています。モーセ書第1章39節で、主はこう語っておられます。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」贖いの犠牲を含む、主の偉大な計画の目的は、すべての人類に不死不滅を与えることです。主の計画に聞き従う人は、神権の賜物と力を通して、永遠の命を受けます。この永遠の命は、神が子供たちにお与えになれる最も偉大な賜物です(教義と聖約14:7参照)。聖文にはこの計画について多くの記述があります。

主の計画に従った歴史そのものが、主の計

画の完全さと一貫性を確かに証しています。主は神権時代と呼ばれる期間に、福音の計画を主の子供たちに入念に教えてこられました。神権時代とは、「聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人、主が地上に置かれる」時代です。

「……主が一つの神権時代を起こされる時、その時代の人々が救いの計画を知るに当たって過去の神権時代に頼る必要がないように、新たに福音を啓示され」ます。¹

いずれの神権時代にも特別な教訓があり、わたしたちは永遠の行く末に備えるうえで、その教訓を自分の計画に取り入れることができます。

アダムの神権時代——天の御父ようになる

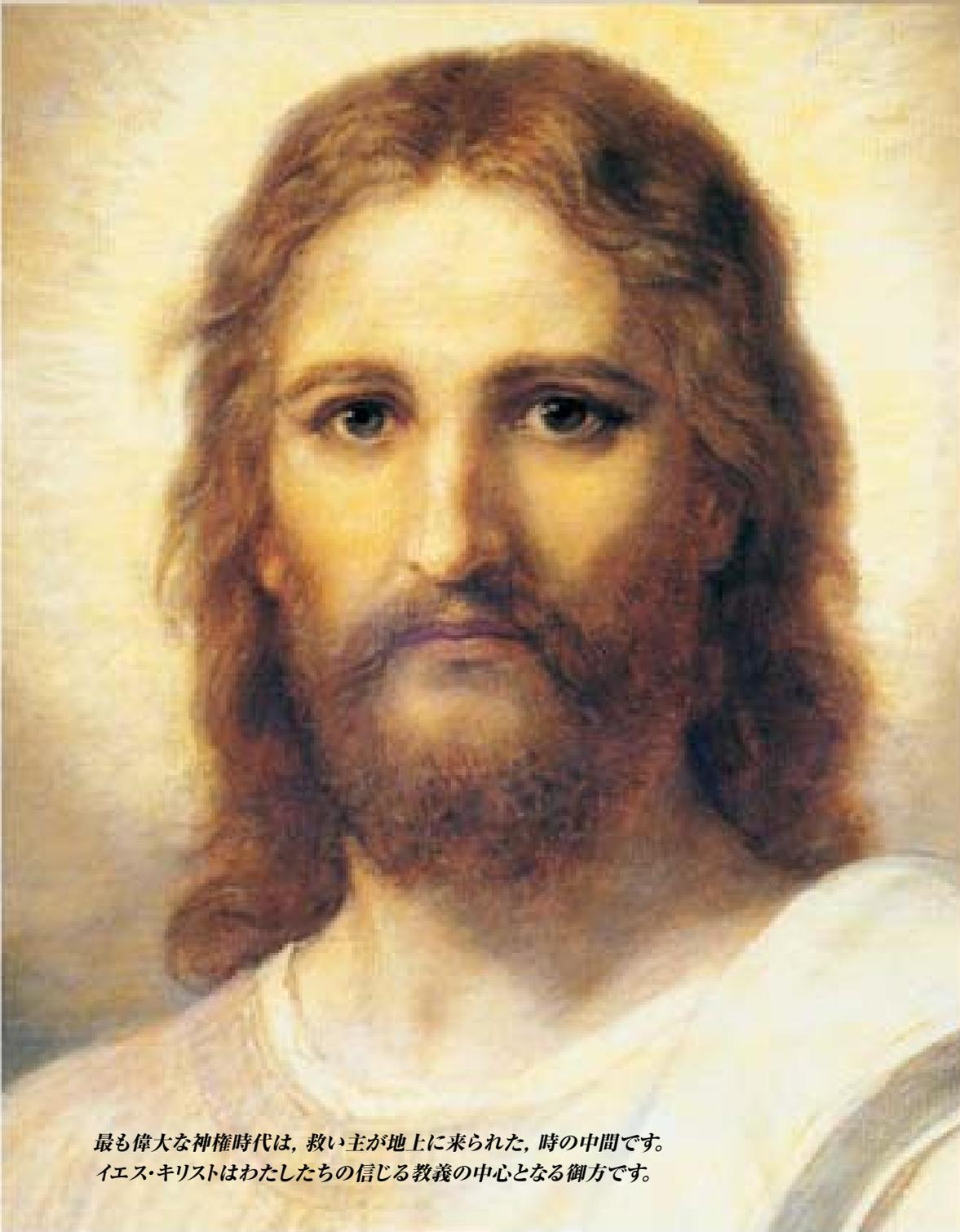
最初の神権時代、主はアダムとエバを創造して地上に置き、選択する機会をお与えになりました(モーセ3:17参照)。彼らは善悪を知る木の実を食べてはならないと命じられ、もし実を食べると園から追い出されると告げられました。しかし実を食べることは彼らに死すべき状態をもたらします。彼らは実を食べました。

墮落は突然起こった惨事ではありませんでし



アダム

右「エドム」の肖像。C.ハリソン・コンロイ社の厚紙による複製。左「園におけるアダムとエバ」の肖像。C.ハリソン・コンロイ社の厚紙による複製。二人に教えを授け、あざけりを受けるアダムとエバの肖像。C.ハリソン・コンロイ画。



福音の神権時代から 学ぶ教訓

アダムの神権時代——
天の御父のようになる

エノクとノアの神権時代——
悪よりも義を選ぶ

アブラハムの神権時代——
聖約を交わし、守る

モーセの神権時代——
主の預言者に従う

時の中間——
光を輝かせる

時満ちる神権時代——
完全な福音を喜ぶ

最も偉大な神権時代は、救い主が地上に来られた、時の中間です。
イエス・キリストはわたしたちの信じる教義の中心となる御方です。



エノク



ノア

た。過ちでも事故でもありませんでした。主がお立てになった救いの計画において慎重に備えられていたのです。墮落の結果、わたしたちは真の喜びを理解するために誘惑にさらされ、苦痛を味わうことになりました。苦さを味わうことなしに、甘さを理解することは決してできないからです(2ニーファイ2:15参照)。天の御父にさらに似た者になるために、この死すべき体において訓練され、磨かれて次の段階に成長していく必要がありました。

この最初の神権時代はわたしたちに何を教えているでしょうか。わたしたちは文字どおり天の御父の霊の子供です。この世に生まれるとき、御父と同じ形に創造された肉体を受けました(創世1:27参照)。必要な儀式を受け、聖約を守り、神の戒めに従うなら、昇栄し、御父のようになると約束されています。

わたしたちはまた、永遠の父なる神の息子や娘として、祈りを通して御父と話すことができ、靈感と啓示を通して答えを受けられることも学んでいます。御父との絶え間ない会話を生活に取り入れる必要があります。

エノクとノアの神権時代——悪よりも義を選ぶ

第2の神権時代は、「神とともに歩いた」エノクの神権時代として知られています(創世5:24)。エノクはシオンの町を築きました。その町は義の力強い象徴となり、そのような義が天だけでなく地でも得られることを示しました(モーセ7:18-21参照)。

次はノアの神権時代です。悪のはびこる時代に生きたノアは、人々に悔い改めを叫びましたが、彼らはその言葉に耳を傾けませんでした。洪水が襲ったとき、救われたのはノアとその家族だけでした(創世7:23参照)。

第2、第3の神権時代から、悪よりも善を選ぶときに起こる結果について学ぶことができます。エノク、そしてエノクとともにいたすべての人は、義にかなった行いによって、非常に大きな祝福を受けました。ノアに従わなかった人々は、罪人が滅ぼされることを経験を通して知りました。

この二つの神権時代は、良いことや健全なことを追求めるようにと教えています。人生を計画するに当たり、この世でできるかぎり多くの良いことを吸収することを目標とすべきで

す。日々聖文を探求することによって、多くの良いことを見いだすことができます。聖文に見いだされる多くの良いことが、わたしたちを永遠の命へと導いてくれるのです。

アブラハムの神権時代——聖約を交わし、守る

次はアブラハムの神権時代でした。アダムやエノクやノアと同様、アブラハムも主から神聖な使命を受けました。主はまた、聖約——拘束力のある固い契約——をアブラハムと交わされました。

「あなたは国を出て、親族と別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。……

わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを計り知れないほど祝福し、あなたの名をすべての国民の間で大いなるものとしてしよう。あなたはあなたの後の子孫にとって祝福の基となり、彼らはすべての国民にこの務めと神権を携えて行くであろう。

わたしはあなたの名によって彼らを祝福しよう。この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によって呼ばれ、あなたの子孫と見なされ、立ち上がってあなたを父としてたたえるであろう。

あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者



をわたしはのろう。地のすべての氏族は、あなた(すなわち、あなたの神権)によって、また、この権利はあなたによって続くという約束をわたしはあなたに与えるのであなたの子孫(すなわち、あなたの神権)によって、またあなたの後の子孫(すなわち、文字どおりの子孫、肉体の子孫)によって、救いの祝福すなわち永遠の命の祝福である福音の祝福を授けら

わ たしたちは、
イエス・キリスト
の福音が
完全に回復された、
時満ちる神権時代という
すばらしい時代に
生きています。



となるように、わたしたちを教え、備えさせてくれます。

時の中間——光を輝かせる

言うまでもなく、最も偉大な神権時代は、救い主が地上に来られた、時の中間です。イエス・キリストはわたしたちの信じる教義の中心となる御方です。イエスは単に罪のない、善良で、愛に満ちた人以上の御方であり、単なる教師以上の御方でした。神の御子であられるにもかかわらず、一人の人として地上で人々に仕えられました。全人類への贖いの犠牲となるため、命を捨て、葬られ、3日目によみがえられ、死が永遠の力を持たないようにされました。その行いによって、すべての人が不死不滅を享受できるようになったのです。

救い主がお教えになった多くの事柄の一つに、わたしたちは世の光であり、人々の前に光を輝かせるようにという教えがあります(マタイ5:14-16参照)。わたしたちは祝福されて主の福音を受けています。人々が皆さんの善い行いを見て、神の永遠の計画についてもっと学びたいと思うように、皆さんの光を輝かせてください。

時満ちる神権時代——完全な福音を喜ぶ

わたしたちは、イエス・キリストの福音が完全に回復された、時満ちる神権時代というすばらしい時代に生きています(教義と聖約27:13参照)。この時代はまた、これまでのすべての神権時代から益を受けており、神がその子供たちになされた事柄を理解したうえで、その土台の上に生活を築いていくことができるのです。

長きにわたって聖なる預言者たちを通して与えられてきた主の言葉は、主が備えてくださった計画の中でわたしたちを導いてくれます。もしふさわしく生活するなら、時の初めから来るべき永遠の世において主とともに住む機会を得るときまで、主の計画は完全なのです。

皆さんは約束の子です。わたしは皆さんに、ただの普通の人で終わろうとするのではなく、秀でた人になるという計画を立ててほしいのです。この世では平凡であることは評価されません。完成を目指して努力しなければなりません。自分が立てた目標を追求し、それに向かって努力するならば、多くの分野で完成の域に達することができるでしょう。

皆さんは大いなる受け継ぎを得ています。福音の原則に従って考えることや行動することを恐れないでください。神の子供として創造された可能性を最大限に発揮し、その祝福を楽しんでください。前進し、神から受けたこの偉大な計画の下で救いを追い求めたいという願いを神が皆さんに与えてくださいますように。■

2007年10月30日、ブリガム・ヤング大学のディボーションアルでの説教から

注

1. 「神権時代」『聖句ガイド』135
2. ゴードン・B・シンクレイ大管長「仕える特権を喜ぶ」『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、24参照

少し 見ているだけ?



ここをクリック!

ポルノグラフィー——必ずかみつきます。

(モロナイ 10:30 参照)

たやすいことではありません

家族で唯一の教会員であっても、わたしは独りぼっちではありません。

ケリー・ウィリアムズ

わたしはメソジスト教会に通う両親のもとで育ちました。家族はクリスマスと復活祭のときぐらしか教会に行きませんでしたが、わたしは天の御父がおられるといつも思っていました。そして兄とわたしは母とともに祈りをささげていました。子供のころに両親が教えてくれたことが、後に学ぶ教えを受け入れる備えになったと思います。

小学6年生のとき両親が離婚しようとしていることを知りました。わたしはひどくショックを受け、深い孤独感に襲われました。友達のコートニーはわたしの気持ちをよく分かってくれました。幼いころに彼女の両親が離婚していたからです。彼女はわたしの親友になりました。

コートニーと二人でわたしのベッドに腰かけて話していたとき、コートニーは初めて教会のことを紹介してくれました。細かいことは話さずに、ただ日曜日に一緒に教会に行ってみないかと誘ってくれたのです。それから時々彼女と教会に行くようになったわたしは、やがて毎週日曜日に通うようになりました。そして12歳になるとミューチャルにも参加するようになりました。そこには何か特別なものがありました。それが何なのかわたしには分かりませんでした。とても楽しい時間でした。

その翌年コートニーともう一人の親友のオーブリーが、わたしを宣教師に会わせてくれました。宣教師が御霊を感じることに話したとき、それがどういうことかすぐに分かりました。そして2回目のレッスンを終わったところで、この教会が真実の教会であるとはっきり知ることができたのです。

ところが福音に対する証を受けたにもかかわらず、なぜかひどくおじけづいて、バプテスマを受けてもいいかどうか、両親に聞くことができずにいました。教会に通い、確固とした証を築きながらも、その「重大な話」を2年間も先送りにしたまま月日が流れていきました。

高校1年生になり、セミナーに登録したわたしはバプテスマのことを11月までに両親に話さなければならないと感じるようになりました。そこで思い切って母に打ち明けると、「教会はいつもあなたをより良い方向に変えてくれたし、あなたが本気でバプテスマを受けたいならそうすべきだと思うわ」と



言ってくれました。それを聞いた瞬間「なぜ今までこんなに長いことためらっていたのだろう」と思いました。

次に父に電話したところ、あまり気乗りがしないようでした。バプテスマを受けてもよいかと尋ねると、だめだと言われてしまいました。まずほかの教会を幾つか訪ねてみるべきだと言うのでそのとおりにしてみました。非常に義になかった生活を送っているすばらしい人々に出会いました。しかし、末日聖徒イエス・キリスト教会の礼拝堂に足を踏み入れたときに感じた特別な気持ちを味わうことはまったくありませんでした。2月になってわたしは父に電話をかけ、「3月7日にバプテスマを受けることにしたの。

お父さんも来てくれたらうれしいんだけど」と伝えました。

その日、父も含めて家族がそろって教会に来てくれました。家族全員がその場にそろったことはわたしにとって何物にも代え難い祝福でした。人生最高の日でした。

時に人はわたしにこう尋ねます。「どうしてそんなことができるの？ 何もかも自分独りで、なぜ教会員としてそんなにしっかりしてられるの？ 教会やセミナーに行くのに起こしてくれる人なんていないでしょうに。あなたは独りぼっちでしょう。」

答えは簡単です。わたしは決して独りではありません。バプテスマを受けてからいろいろ葛藤はありました。家族で自分だけが教会員であることはたやすいことではありません。しかし主はわたしたちを決して独りぼっちにしておくことはない約束しておられます(ヨハネ14:16-18参照)。天の御父はわたしたちをこよなく愛しておられます。そのためにキリストをこの世にお送りになり、キリストはわたしたちのために死なれました。天の御父がわたしたちをお忘れになることがあるでしょうか。

人生には多くの困難が伴います。だれでも自分は無力で信仰が弱いと感じるときがあります。しかし、わたしたちを心から愛してくださる天の御父にしっかりとつながって、研究と祈りにより天の御父との関係を強めていけば、そうした試練を乗り越えることができるのです。主は次のように約束しておられます。「わたしはあなたがたに先立っていこう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約84:88)。■



新会員が強さを保て



前中央若い女性会長(2002-2008年)
スーザン・W・タナー

わたしたちは皆、
新会員が教会に
根を下ろす過程に
携わっています。
それは、
たゆみない改心の過程、
絶えず主の方を向き、
主に立ち返り続ける
一連の過程です。

以前ブラジル南部を訪れた際、主人が同行しました。そこは主人の伝道地でした。ある夜、集会に到着すると、若い母親が入り口で出迎えてくれ、その集会でわたしの通訳者となることを告げ、自己紹介をしてくれました。彼女は興奮気味に主人の方に向き直ると、こう言いました。「タナー長老、あなたは昔、わたしの家族に福音をもたらしてくださった方です。わたしは当時、まだ幼い子供でしたが、家族の最初のバプテスマに携わってくださったあなたの名前を聞いて育ちました。」それから、家族がそれぞれ長年にわたって忠実な教会員であり続けたことを話してくれました。何と感動的な再会だったことでしょう。

集会中、主人が聴衆を見渡すと、自分が福音を教え、その後忠実であり続けた人たちが会場のあちらこちらに見えました。主人は証を述べるに当たり、その人たちが忠実であり続けたことを知り喜びを感じていると伝えました。主人は、モルモン書の中のある話を思い出したと語りました。アルマが旅の途中で親友であるモーサヤの息子たちに出会ったときの話です。

「モーサヤのこの息子たちは、天使が初めてア

ルマに現れたときにアルマとともにいた人々である。そのため、アルマは自分の仲間に会えたことでひとかたならず喜んだ。しかも、彼らがなおも主にあつて兄弟であつたので、その喜びはいっそう深かった。」(アルマ17:2, 強調付加)

ブラジルでのその夜、主人も同じように「なおも主にあつて兄弟〔姉妹〕であつた」昔の親友に会つたのです。

これはすべての忠実な宣教師の望みです。すなわち、新会員が教会にとどまり、「真理を深く知るように」なることを願うのです(アルマ17:2)。これは、すべての忠実な両親の望みでもあります。子供たちに真理を守り続けてほしいという願いです。また、教会の指導者がそれぞれに託されている会員に望んでいることでもあり、さらには天の御父がその子供たちに心から望んでおられることでもあるのです(モーセ1:39参照)。

道からそれた人々を探す

わたしは、主が頻繁に御自身の民に主の愛を伝えられることに胸を打たれます。主は、民が道をそれたときでさえ愛を伝えられます。あるいは、道をそれたときにこそそうされるのかもしれませんが。なくしたものについてお教えになった救い主のたとえを考えてみてください。羊、銀貨、放蕩息子(ルカ15章参照)。羊飼いは迷い出た羊を探しに行きます。銀貨をなくした女性は一生懸命家中を探します。父親は、道からそれた息子が「まだ遠く離れて」いるのに走り寄り、その首を「だいて接吻し」ます(ルカ15:20)。同様に、オリーブの木のとえの中にも、道からそれた人に対する主の忍耐にあふれる愛情をかいま見ることができます(モルモン書ヤコブ5章参照)。何度も何度も、果



るよう助ける



新 会員や
道をそれようと
している
会員には
わたしたちの
助けが必要です。
友人と責任、
霊的な養いを
必要としているのです。

樹園の主人はこうに嘆きます。「この木を失うのは悲しい。」(ヤコブ5:7, 11, 13, 32)。イザヤ書全書にわたり、主は、イスラエルの民を忘れることは決してないことを何度も念を押しておられます。「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。」(イザヤ49:16) エゼキエル書の中で、主はこうに言われました。「わたしは、うせたものを尋ね、迷い出たものを引き返し、傷ついたものを包[む]。」「(エゼキエル34:16)

わたしたちは定着と再活発化の業に携わるとき、迷い出た羊やなくした銀貨、放蕩息子のようにになっているかもしれない兄弟や姉妹を尋ね求めるといふ、愛情に満ちた業にあって主の代理人となるのです。

新しい世界に足を踏み入れる

生活の中の大きな変化に順応しようとする新会員にとっても、この道は険しいものであるかもしれません。ある新会員がこの難しい変化についてこう言い表しました。「わたしたちは、求道者という立場から、教会員という立場に変わったときに、自分がまったく異なる世界、独自の

伝統、文化、言葉を持つ世界に足を踏み入れてしまったことに驚きます。わたしたちは、この新しい世界を旅するときに導きを求めることのできる人や場所がないということに気づきます。」¹

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008年)は、新会員と道をそれようとしている会員にはわたしたちの助けが必要であることを繰り返し教えました。彼らには、モロナイ書に記されているように、友人と責任、そして霊的な養い

が必要です。「そして人々はバプテスマを認められ……ると、キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため……である。」(モロナイ6:4)

そのブラジルでの旅の間、わたしは多くの若い女性の自宅を訪れました。彼らを「覚え、養い」たいと思ったのです。確固とした証を持った若い女性もいましたが、教会に活発に集っていない若い女性もいました。どちらの場合にも、わたしは若い女性のテーマを暗唱することができるか尋ねました。何と、皆できたのです。それからわたしは、一人一人に、若い女性のどの徳質が自分にとっていちばん大切か、そしてそれはなぜかと尋ねました。どの少女が答えたときも、わたしは御霊を感じ、教会に集っていない少女たちの中にも小さな信仰がまだあることを知りました。もし少女たちのことを覚え、愛し、そのわずかな信仰を養ってくれる人がいるならば、その信仰の光は再び明るい輝きを放つということを確認しました。

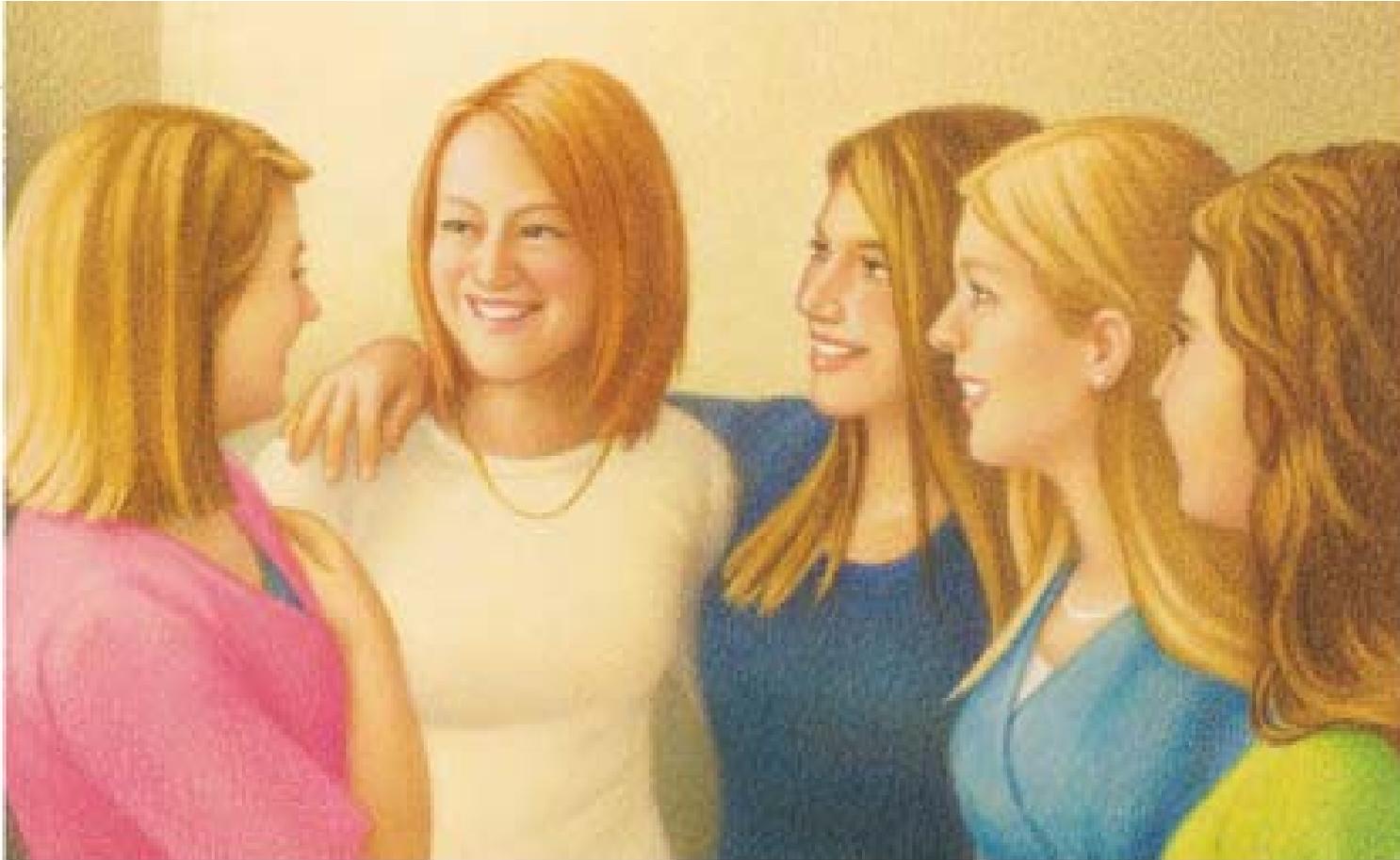
個人の責任

神の善い言葉により養うことには、人の霊的な成長と幸福を気遣うことが含まれています。それは、わたしたちが自分自身の肉体を養うのと同じです。親や指導者、友人がこの過程を助けるべきである一方、新会員や疑問を持っている青少年、苦しんでいる会員も自分で自分を助けられるようになる責任があります。そのためには個人の福音学習が最も効果的です。

わたしが高校を卒業した夏のことをよく覚えています。この時期、多くの新会員のように霊的に混乱し、福音の中で自分の道を探していました。この問題を解決するわたしの手段は、モルモン書を毎日熱心に読み研究することで、それはしばしば長時間に及びました。今でもこのときの御霊に満たされた時間のことをよく覚えています。それは証を養い成長させるための基礎固めをする時期となりました。

道に迷っている人や道からそれようとしてい





る人を覚え、養うことに加え、奉仕する機会を彼らに与える必要があります。救い主は使徒ペテロをこのように諭されました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:32) 教会の召しは、周りの人を強める機会を教会員に与えるとともに、その奉仕により本人も成長するのです。

わたしの子供たちは10代のころ、ミューチャルや他の集会に行きたがらないことが時々ありました。そんなときわたしは子供たちに彼らが持っている責任について話しました。「わたしたちが集会に行くのは、何かを得るためばかりではないのよ。何かを与えるためでもあるの。」また、しばしばこのように言ったものです。「あなたには教会が必要で、教会にもあなたが必要なのよ。」新会員とあまり活発でない会員は必要とされていると感じていなければなりません。彼らは必要とされているのですから。

すべての人の業

わたしたちは皆、新会員が教会に根を下ろす過程に携わっています。それは、たゆみない改心の過程、絶えず主の方を向き、主に立ち返り続ける一連の過程です。アルマはこれを大きな変化と言い表しました(アルマ5:14参照)。改心はわたしたちが携わっている業です。働きかける相手が求道者であれ、青少年や、あまり活発でない会員であれ、活発会員であれ、改心の業なのです。わたしたちは皆、主の子供た

ちに不死不滅と永遠の命をもたらすという主の業に携わるべきです(モーセ1:39参照)。

主人は伝道時代の日記にこう記しています。——「改心は最もすばらしい奇跡だ。病人を癒し死者をよみがえらせることよりもすばらしい。癒された人もいつかまた病に冒されついに亡くなるが、改心の奇跡は永続し、改宗者自身のみならずその子孫の永遠にまで影響をもたらす。すべての世代が、改心の奇跡により癒され死から贖われるのだ。」

主とともに、うせたものを尋ね、迷い出たものを引き返し、傷ついたものを包みましょう。そうするならば、主の大いなる日に、福音にあってわたしたちが愛した人々が主においてまだ兄弟、姉妹であることを知って、わたしの主人が喜んだように皆さんも喜ぶことでしょう。■

注

1. ゴードン・B・シンクレイ「子羊を見いだし、羊を養う」[リアホナ]1999年7月号、122で引用

新しい改宗者として 実りを得る

ゲイル・S・イリフ

友情の手を差し伸べ、
奉仕活動に携わり、
聖文の言葉を
よく味わうとき、
わたしたちの自信は
増します。

わたしが初めて末日聖徒イエス・キリスト教会に出席した冬の日の朝は、いつになく晴れわたった、すがすがしい朝でした。集会所に向かっている間、教会に加わることで自分の生活にどのような変化が起こるのか、まったく想像もつきませんでした。幸い、わたしのような改宗者が福音の中で強くなるために、実践できることが幾つかあります。友情をはぐくみ、教会で奉仕し、「キリストの言葉をよく味わう」(2ニーファイ 32:3)ことです。

友情をはぐくむ

すべての教会員、とりわけ新しい改宗者は、支えてくれる友人を必要としています。以下に、友情を築くことがどのように助けになるかを紹介します。

教会員は改宗者に手を差し伸べることができます。わたしの場合、バプテスマを受ける前に、ある親切な姉妹が、ただわたしにあいさつしたいからという理由だけで、集会場の向こう側からわざわざ歩いて来てくれました。わたしは大切な存在なのだ実感できるよう、気遣ってくれたことに感動しました。ほかにも多くの方が同じようにしてくれました。改宗者は、教会員から愛されていることを実感すると、自身の心も愛で満たされます。

教会のクラスの教師も関心を寄せてくれています。福音の基礎クラスの教師は、わたしにとって大いなる靈感の源でした。レッスンに参加しているときに、救い主が直接自分に話しかけてくださり、わたしを高め、前進するよう励ましてくださっていると、度々感じました。

同様に、ホームティーチャーや訪問教師も教会員を見守り、祝福をもたらすことができます。皆さんの自宅に招待し、感謝を伝え、彼らの奉仕に対して本人にも主にも感謝を伝えてください。十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老



改宗者に関心を寄せる

「改宗者のだれもが3つ
のものを必要としています。
それは友人と責任と『神の
善い言葉』(モロナイ6:4)
による養いです。」



ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)
「改宗者と若い男性について」
『聖徒の道』1997年7月号, 56

(1906-2004年)は次のように教えています。「感謝の気持ちが……大きくなる
ときに、わたしたちの心と思いと霊は
祝福されて、求められている事柄を続
けて実行しようとする気持ちに駆られ
るのです。」¹

改宗者も人に手を差し伸べるときに、祝福を受けます。ある日、わたしは1枚のグリーティングカードを買いました。表には大きな目が描かれていて、中にはこう書いてありました。「いつもわたしから目を離さずにいてくれてありがとう。」わたしはそのカードを、同じワードで日ごろから親しくしてくれている一人の姉妹に送りました。そうすると、わたしも彼女に対するクリスチャンらしい愛に満たされて、心が温かくなりました。

最後に、わたしたちは天の御父やイエス・キリストとの関係を強める必要があります。そのためには、奉仕し、感謝を表し、祈る必要があります。すると、自分は救い主の果たされた偉大な犠牲にふさわしい者であることが、御霊^{みたま}によって確信できるようになります。

教会で奉仕する

普通、バプテスマを受けてからしばらくすると、新会員はワードや支部で奉仕する役割を引き受けるように言われます。ビショップや支部会長がそのような召しを伝えます。ある人には、それが試練になることもあります。

最初の召しとして扶助協会の書記の責任を受けたとき、わたしは「どうしてこんな重要な責任に召されたのだろうか」と悩みました。大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように説明しています。「圧倒されてしまうような時があるかもしれません。自分は不適格なのではないかという思いも敵の攻撃の一つです。……しかし、あなたには自分の能力以上の力を受ける権利があり、孤軍奮闘する必要はないのです。」²

その後しばらくして、扶助協会の会長から次のようなことを言われました。「会長会であなたが出してくれた提案は、靈感を受けたものだったわ。」わたしは困惑して、「わたしの提案がですか?」と尋ねました。会長は、わたしが御霊に従っていたことを優しく伝えてくれました。わたしたちの働きを導いてお

られる神の手に気づくのは、最初のうちは簡単なことではありません。でも、戒めを守り、熱心に働くなら、神が御自身の召された人々を大いなる者とされるのに気づくことでしょう。

キリストの言葉をよく味わう

主がわたしたちを愛し支えてくださることを理解するために、恐らくいちばん良い方法は聖文を勉強することでしょう。聖文はこう教えています。「主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は……主のもとに来る者を決して拒まれない。」(2ニーファイ26:33)

新会員の中には、周囲の人の持つ知識や証^{あかし}に驚く人もいるかもしれません。でも、主の教え方は、「教えに教え、訓戒に訓戒」という方法だということを忘れないでください(2ニーファイ28:30)。だれでも前進しながら学ぶことが必要です。イエスでさえ、「最初から完全は受けず、恵みに恵みを受け続け、ついに完全を受けられた。このようにして、彼は神の子と呼ばれた。彼は最初から完全は受けられなかったからである。」(教義と聖約93:13-14)

それが分かってからというもの、主に対する崇敬の念がいつそう深まりました。主はわたしが経験した苦悩や誘惑、逆境や孤独を確かに知っておられます(アルマ7:11参照)。わたしは主に全幅の信頼を置くことができます。聖文は、わたしたちがどこにしようとも、救い主のわたしたちに対する愛、理解、憐れみ^{あわ}は、完全かつ無限であると教えています。

友情の手を差し伸べ、奉仕活動に携わり、聖文の言葉をよく味わうとき、わたしたちの自信は増し、自分がなりたいた忠実な末日聖徒になれることでしょう。■

注

1. デビッド・B・ヘイト「清められたのは、10人ではなかったか」『リアホナ』2002年11月号, 26
2. ヘンリー・B・アイリング「神からの召し」『リアホナ』2002年11月号, 76

女性の神聖な役割を理解する



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉を教えてください。その教義について証してください。あなたが教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック——「天の御父から与えられた幸福の計画について聖文を研究し、瞑想をしたことから得た証があります。その計画には、御父の娘たちのために備えられた役割があります。養いを与える責任の半分は女性が担っていて、わたしたちがその役割を果たさなければ、だれもわたしたちに代わってその役割を果たすことはできません。生命を創造し、霊を養い、成長を促し、ほかのすべてのものに影響を及ぼすという御父の計画の半分はわたしたちに与えられました。その役割を委任することはできません。だれかに譲ることもできません。それはわたしたちの責任なのです。わたしたちは、その役割を拒み否定することもできます。それでもなお、養いを与えることはわたしたちの役割であり、わたしたちは責任を負っています。生まれる前に知っていたことをすべて思い出す日が来ることでしょう。そのとき、わたしたちは、すさまじい争いの中、この特権のために戦ったことを思い出すでしょう。この

責任をどのように果たしますか。わたしたちは日々、わたしたちにしかなし得ない業に、力を注いでいるのです。」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バード長老——「地球はなぜ創造されたのでしょうか。基本的な教義から言えば、神の霊の子供たちが昇栄と永遠の命に至る道を歩み続けられるようにするためです。……

……端的に言えば、社会、教会、そして御父の子供たちの永遠の行く末に最も意義深い貢献をするという点では、父親や母親の役割を果たすこと以上に意義深い働きはありません。それでも、母親や父親であることだけが、徳や、主の前で受け入れられる尺度とはなりません。

主と聖約を交わした教会のすべての姉妹は、人々の救いの手助けをなし、世の女性を導き、シオンの家庭を強め、神の王国を築くようにとの神聖な命令を神から受けています。」（「義にかなった女性たち」『リアホナ』2002年12月号、36、39参照）

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老——「神の計画により、男女は、完成と完全な栄光に向かって一緒に歩むよう意図されて造られました。男性と女性は、明らかに異なる気質と能力を備えているので、結婚生活の中に、それぞれ独特の見方や経験を持ち込みます。男女は、異なる方法で平等に貢献し合いながら一致します。ほか

の方法では一致できません。」（「結婚——神の永遠の計画に不可欠なもの」『リアホナ』2006年6月号、52）

中央扶助協会第一顧問 シルビア・H・オールレッド——「主は女性に、愛、思



いやり、親切、慈愛という天与の特質を祝福しておられます。訪問教師としての毎月の訪問の際に、愛と親切の手を差し伸べ、思いやりと慈愛の賜物をささげるときに、一人一人の姉妹を祝福することができます。個人的な状況がどうであれ、わたしたち一人一人に人を教化し、養う機会があるのです。」（「わたしの羊を養いなさい」『リアホナ』2007年11月号、113）

スペンサー・W・キンボール大管長 (1895 - 1985年)——「特に救い主の再臨に先立つこの最後の時代に、義にかなった女性となることは、きわめて崇高な召しであると言えましょう。義にかなった女性の力とその影響力は今日、平静な時代と比べてはるかに大きなものとなります。」（「女性の特権と責任」『聖徒の道』1979年2月号、149）■

「アルコールや麻薬を勧められはしないかと心配です。誘いを断ったり、相手を怒らせたりしたくありません。言いなりににならないようにするにはどうすればいいですか。」

断ることを、今、前もって決心してください。言いなりにになってしまったら、その後断るのがもっと難しくなります。ほとんどの人は、自分の標準に従って生活しているあなたを尊敬するようになります。そうすれば、その後仲間に加わるよう誘われることは少なくなります。

人があなたに腹を立てることを心配しないでください。腹を立てたとしたら、それは本人の選択です。しかしあなたの選択は、御霊を保ち、後悔するようなことをしないことです。

味方になってくれる友達がいると、断りやすいかもしれません。友達の支えは、集団に立ち向かう助けとなるでしょう。

また、そのような状況にならないよう努力してください。同じ標準を持ち、その標準を尊んでいる友達を選んでください。例えば、パーティーに行くなら、どのような人が参加するのか調べます。いい気持ちを感じなかったり、行くべきではないと感じたりしたら、行ってはいけません。



約束を守る

わたしはバプテスマを受けた後、アルコールやたばこのあるパーティーには行きませんでした。ある日友達に、「ねえ、行こうよ。何も起らないから」と言われました。でもわたしは断りました。アルコールもたばこも麻薬もしないと、バプテスマのとき約束したからです。友達は、わたしが教会員であることを知っていましたし、約束することの大切さを知っているので、理解してくれました。

わたしたちが喜ばせなければならないのは、友達ではなく、天の御父です。バプテスマを受けたときに御父と交わした約束を果たすなら、祝福されるでしょう。

ペルー、リマ、ロクサーナ・C、19歳



決心する

わたしも友達をがっかりさせることを心配していました。でも、もし友達の言いなりになったら、ほかのだれをがっかりさせてしまうか考えました。わたしにとっていちばん良い方法は、そのような状況が起こるずっと前に決心することでした。麻薬やアルコールを断ることを決心しました。2、3回断った後、そのような決心をしたことでもっと尊敬されるようになりました。しばらくすると、お酒を飲まないかと誘われても、友達の一人が「だめだよ、カルダーは飲まないんだ」と言ってくれるようになりました。わたしがお酒を飲まないことを友達にいったん知ってもらおうと、後は楽でした。

アメリカ合衆国、アイダホ州ボカテロ伝道部、カルダー長老、20歳



**忠実であるよう勇気を奮
い起こす**

今年の初め、麻薬を勧められました。相手の気分を害したくはありませんでしたが、勇気をもって、興味がないと伝えました。わたしは、自分が信じていることに忠実であったことにどんなに感謝しているか、言葉では表せません。数週間後、麻薬を勧めた人が、わたしが自分の信じていることを貫いたので、とても感銘を受けたと話してくれました。そのようなことができる人に会ったことがなく、とても勇気の要ることだと言ってくれたのです。そしてこの経験を決して忘れないだろうと言いました。

あなたは模範を通して人々の光となり、良い影響を与える人となることができます(マタイ5:16参照)。

アメリカ合衆国, アリゾナ州, メアリー・T, 16歳



**確固として
揺るぎなくある**

友達に、あなたが誘いを断って自分の標準を守っていることを尊敬するようになるでしょう。同じ標準を持つ友達と親しくしてください。確固として揺るぎなくあろうとするあなたを支持してくれるでしょう。

アメリカ合衆国, ユタ州, リンディ・S, 15歳



今、決心する

麻薬やアルコールを絶対に受け入れないと決心するならば、それらを断ることはずっと簡単になります。自分の答えを2度考える必要はないのです。人はあなたの選択を尊重するようになり、知恵の言葉について話すことで、伝道の経験ができるかもしれません。

アメリカ合衆国, アラバマ州, チャンドラ・H, 14歳



勇気を持つ

わたしも同じような経験があります。わたしは天の御父に祈りました。聖文を読み、深く考え、^{あかし}証を強める努力をしました。そして、それからそのような誘いを受けたとき、「悪いけど、わたしは飲まないよ。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員なんだ」と言いました。自分の標準を理解してもらえよう努めました。初めのうちは緊張しましたが、今は慣れて、主の戒めを守り続けています。主の助けによって試練を乗り越えました。また、自信、信仰、健康という祝福を受け、高い標準を身に付けることができました。どうか、自信と勇気をもって友達の誘いを断ってください。標準を下げなければ、明るい光のように輝くことができます。

韓国, ソウル, リー・M, 17歳



強くありなさい

「皆さんは恐ろしいほどの誘惑に直面しています。その誘惑は、人気のあるエンターテインメントの会場や、インターネット、映画、テレビ、低俗な文学作品、その他の方法で皆さんを襲い、巧妙で、性的な刺激を伴う、抵抗し難いものです。友人からのプレッシャーは耐えられないほど強いかもしれませんが、それでも、友である愛する若人の皆さん、戦いをやめてはいけません。強くなければなりません。目の前にある魅力的な誘惑に屈するのではなく、将来的に最も価値のあるものに目を向けなければなりません。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)「国民の旗、世の光」『リアホナ』2003年11月号, 83

質問

「教会の標準は、わたしたちを縛るものではなく、実際には自由を与えるものであることを、どうしたら友人に納得してもらえますでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2009年3月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 3/09
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メールアドレス——
liahona@ldschurch.org

電子メールまたは手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名

生年月日

ワード(または支部)

ステーク(または地方部)

意見と写真の掲載を許可します。

署名

親の署名(18歳未満の場合)



だれにも 分からないよ

七十八
スタンレー・G・エリス長老

わたしはアメリカ合衆国アイダホ州パーリーで生まれ育ちました。父がそこに農場と牧場を持っていたので、わたしはよく戸外で働きました。家族は何世代にもわたる教会員で、わたしは信仰深い家庭で育ちました。しかし高校生^{あかし}のとき、自らが求めた機会によって、わたしの証は試しを受けたのです。

わたしは同じ高校に交換留学生の経験を持つ人がいることを知っていました。留学するのは興味深い経験だと思ったわたしは、交換留学生になることについて調べ、手続きの方法を確認し、申し込みました。申請は受け入れられました。そのときわたしは16歳で、それまでに1年間ドイツ語の授業を受けていたので、わたしもアドバイザーの先生も、わたしがドイツへ行くように割り当てられるだろうと思いました。この留学プログラムでは、生徒に関するすべての情報を基に、喜んで受け入れ先となってくれる家族を選び、その国に生徒を送るのです。

申請が受理され、わたしはブラジルに送られることになりました。わたしはその決定に同意しました。サンパウロでわたしは素晴らしい家族と暮らしました。男の子が6人、女の子が1人いる家族で、アメリカのわたしの家族と同じでした。幸いなことに、彼らは英語を話しました。わたしがその家族と過ごしたのはひと夏だけでしたが、素晴らしい経験となりました。

ブラジルにいる間、いろいろな事を試してみたい年ごろの友達が何人かできました。彼ら

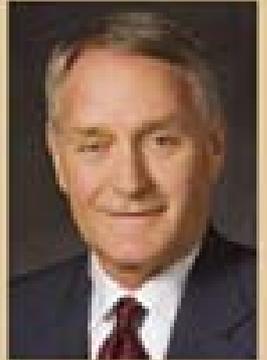
は、自分たちが会った女の子たちと遊びに行こうと誘ってくるようになりました。

わたしは、ホストファミリー以外に自分を知っている人がだれもない、家から何千マイルも離れた国にいました。一緒に行こうと度々声をかけてくる友達の口癖は、「だれにも分からないよ」でした。色々な意味でそれはほんとうでした。確かに、わたしのアメリカの家族に知られることはありませんでした。わたしは10代で、家から遠く離れ、間違っ^たことをしようと誘われていました。そして、たとえ間違っ^たことをしても、決してだれにも知られることはなかったでしょう。

けれども、わたしは自分には分かるということを知っていました。そして、主がお分かりになるということを知っていました。ですから、彼らの誘いを断りました。断り続けました。彼らはわたしを説得できると信じて疑わず、繰り返し誘ってきました。そのチャレンジは一度だけではありませんでした。しかし断る度に、わたしの決心は強くなりました。

サタンの言い訳

「だれにも分からないよ」というのは、わたしたちに対してサタンが正当化するために使う言い訳です。それはうそなのです。ブラジルにいたあの夏、わたしはそれを自分で知りました。サタンのうそを信じることで多くの人が、インターネットのポルノグラフィーのようなものに夢中になるのです。彼らはそのようなことをしてもだれにも分からないだろうと思っています。しかし必ず、自分で分かっているのです。そして神が御存じなのです。



一緒に行こうと
度々声をかけてくる
友達の口癖は、
「だれにも分からないよ」
でした。
けれども、わたしは
自分には分かる
ということを知
っていました。
そして、
主がお分かりになる
ということを知
っていました。



人生のどんな面においても、そのうそを絶対に信じないでください。わたしは、その間違っ
た論理がごまかしであると見破ることができ、
誘惑に屈しなかったことに感謝しています。
御霊^{みたま}が真理を感じるよう助けてくださいまし
た。また、家庭で学んでいた事柄のおか
げで、自分には何が正しいかが分かる、
という事実にも頼りました。両親はわた
しに真理を教えてくれました。また、初
等協会、日曜学校、アロン神権、セミナ
リーで真理を学びました。福音の基
礎は家庭に、両親の育て方に、そして、
教会のレッスンの中にありました。

交換留学生として経験
した誘惑は
外から、つ
まり、友達か
らでした。自分
が信じている事柄
に対する外からの
チャレンジに、わたしはぐ
らつかずにいることができました。し

かし、さらにいろいろな経験をして、わたした
ちがあらゆる方面から試されることを知りました。
最も難しい試しの幾つかは内側からの
ものです。心や思いという静寂さの中に、耐えな
ければいけない誘惑が起こるときです。

主を試みる

家を離れていたときのことで。そのような
チャレンジの一つが、正直に^{じょうふん}什分の一を納める
という選択をしたときにやって来ました。毎年父
はわたしたちを什分の一面接に連れて行きました。
わたしたちは、父に計算を手伝ってもらって、
什分の一を納めたものです。そのようにして
子供のころからずっと、什分の一を納める習慣
を身に付けていきました。そのとき尋ねられたら、
什分の一の証があると答えたことでしょう。

高校を終えるとわたしはハーバード大学への
入学が許可され、その夏は、奨学金で賄えない
分を稼ぐために働きました。ところが1学期が

終了するまでに、軽率にも1年分の費用として稼
いでおいたお金を全部使ってしまったのです。

2学期の初めに仕事を見つけました。わたし
はフルタイムの学生でしたから、たくさんは働
けませんでした。それでも1週間に2、3時間
働いて初めての給料を手に入れました。もちろ
ん額は多くはありませんでしたが、それが次の給
料日までの全財産でした。

そこで疑問が生じました。「什分の一はどう
しよう。」わたしはそれまで什分の一を納める
のを習慣としていましたが、いつも什分の一を
納めるのに十分なお金を持っていました。ここ
で試しに直面したのです。これからの2週間
を過ごす十分な金額があるか分からないとき
に、什分の一を納めるかどうかです。

このことを考えていたとき、主の約束が書かれ
たマラキ書第3章10節の聖句を思い出しまし
た。「これをもってわたしを試み、わたしが天の
窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注
ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」

こうして、わたしは答えを知りました。主にお
任せすることにしたのです。次の給料日まで過
ごす十分な金額があるかどうか確信がないま
ま、什分の一を納めました。そして奇跡が起き
ました。2週間を無事に過ごすことができたの
です。

主が約束を守られると知った衝撃はとても大
きいものでした。主は自ら約束したことを行っ
てくださいました。什分の一を納めれば祝福し
てくださる。まさに聖文に書いてあるとおりです。
それからその学期が終わるまで、2週間ごとに
同じ奇跡が起こりました。それ以前にも、わたし
には什分の一の証があると思っていました。でも
そのときは、正しい決心をしたおかげで什分
の一の強い証を得たのです。主はいつも御自
身の言うことを行われます。ですから、わたしの
証は着実に強くなってきていきました。

主を信頼する

自分の証を強めようとしている10代の皆さん
に勧めます。皆さんは主の言葉を信頼しなけれ

わ たしたちは
あらゆる
方面から

試されることを
知りました。

最も難しい

試しの幾つかは、

自分の心や思いという
静寂さの中で起こる
内側からのものです。

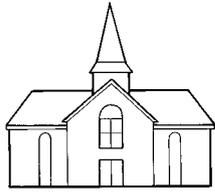
次の給料日まで過ごす十分な金額があるかどうか
確信がないまま、^{しゅうぶん} 仕方の一を納めました。
そして奇跡が起きました。
2週間を無事に過ごすことができたのです。



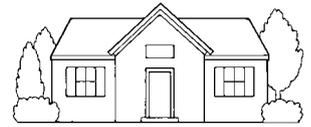
ばなりません。主が何かを約束されたら、皆さんはそれを信頼することができます。聖文にあるとおり、主はうそをつくことがおできにならないからです。主は約束を守られます。預言者を通してであっても、直接聖文からであっても、主が約束されたとき、わたしたちはそれを信頼することができます。

聖文でわたしたちは主に頼るよう勧められています。「求めなさい。そうすれば与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば開かれるであろう。求める者には与えられ、たたく者には開かれるからである。」(3ニーファイ 27:29)

これらの経験やその他の経験を通して、わたしはこの聖句が真実であることを学びました。天の御父はいつもわたしたちのそばにいてくださいます。試しが外からのものでも、^{たまもの}内からのものでも、御父の計画、聖文、愛、そして、聖霊の賜物がわたしたちを最後まで助けてくれるのです。■



託児で教える, 家庭で教える



中央初等協会会長第一顧問
マーガレット・S・リファース

新しい初等協会
託児の手引きが
特別なのは
多くの理由が
あります。
その一つに、
託児年齢の
子供たちが、
見る事、聞く事、
行う事を通して、
福音の真理を
学ぶ助けとなる
活動の掲載が
挙げられます。

1 歳8か月のチャーリーは、家庭での福音学習に対して意欲的な反応を示します。チャーリーは救い主の絵を指さし、「イエスさま」と言うことができます。しかし、初等協会託児クラスに出席し、イエスについて学ぶときは、まだ少し恥ずかしがっています。

もう少しで3歳になるサムは、託児になじんでいます。今までクラスで習ってきた数々の初等協会の歌を、家庭の夕べで歌うのが好きです。実際、サムの祖母と一緒に歌ったところ、サムが少なくとも10曲以上の歌を覚えていて歌えることに、祖母は驚きました。

チャーリーもサムも、彼らが教会で経験する最初の組織である託児クラスに参加しています。託児では1歳半から3歳までの子供たちが福音学習を深めています。新しい初等協会託児の手引きである『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』は、託児の教師にとっても家庭の両親にとっても、子供たちに基本的な福音の真理を教えるためのすばらしい資料です。

柔軟な教材

この年齢の子供たちは、天の御父とイエスの存在や愛、家族の愛、祈りの力、最初の示現の真実性、神の創造物の美しさなど、単純とはいえ奥深い福音の原則を理解し始めることができます。

また、彼らは活発で、愛と優しさを必要としています。集中できる時間は短く、言語能力を習得しつつあり、様々な活動を楽しみます。常に学んでいるのです。トーマス・S・モンソン大管長は、「人間の一生の中で最も感受性が強いのは、2、3歳の幼児期である」¹ という著名な医学界の権威の言葉を引用しています。

子供たちはクラスの時間に、音楽活動、遊びの時間、おやつ時間、そして福音の基本的な教義についてのレッスンを楽しまます。新しい託児の手引きのレッスンは、この年齢層の子供たちの必要を満たすために柔軟に用いることができます。各レッスンの始めに、教師のための導入部分があり、そこには教える教義に関する簡単な説明と参照聖句が記されています。また、託児年齢の子供たちに期待することや、子供の必要を満たすために教え方を適応させる方法を両親や教師が理解できるよう、教え方のヒントも掲載されています。またレッスンは、子供が教義について聞き、教義に関連するものを見て、歌を歌い、体を使った活動を行い、その教義に関連することを言うことができるように助け





各レッスンには、
 レッスンで教えられている
 教義を補足するために、
 2ページにわたる
 視覚教材が
 含まれています。

子供たちに
 基本的な福音の真理を教えるために、
 託児教師や家庭の両親は、
 「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」を
 使用することができます。



2

MI PADRE CELESTIAL TIENE UN PLAN PARA MI

Este día de la gran fiesta celebraremos una fiesta con los niños y niñas y recibiremos a los invitados.

Revisemos un cuento sobre el Padre Celestial como ejemplo para el niño. El cuento "El Padre Celestial tiene un plan para mí" es un cuento sobre el Padre Celestial y su amor por nosotros. Este es un cuento que se puede leer en la página de la lección y el cuento "El Padre Celestial tiene un plan para mí" se encuentra en la página 10.



EXERCICIO PRACTICO PARA LA COMPRENSION

Objetivo: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Contenido: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Actividad: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Material: Una copia de la primera oración.

Procedimiento: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Nota: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Objetivo: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Contenido: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Actividad: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Material: Una copia de la primera oración.

Procedimiento: El niño o niña podrá leer la primera oración.

Nota: El niño o niña podrá leer la primera oración.

**教え方のヒントは、
子供たちの必要を満たすために
レッスンを適応させる方法を
両親や教師が理解するのに役立ちます。**



様々な学びの活動が含まれています。
 託児指導者や親は靈感の導きを受けるままに、どの順序でレッスンを教えてもかまいません。深く学ばせるために、レッスンや活動は子供の必要や興味に応じて、数週間続けて行ったり、1回の託児クラスで2度行ったりすることもできます。
 提案されている任意の活動は、託児クラス中いつでも、何回でも行うことができます。視覚教材や活動はすべて手引きに含まれています。

成功の証

託児の手引きが改定されるに当たり、世界中の初等協会託児指導者がレッスンを試しました。それらの指導者から寄せられた多くのすばらしい提案が、新しい手引きに組み込まれました。

ガーナ・ケープコーストステークのある託児指導者は、次のように述べました。「これらのレッスンを試しながら、教えることについて多くを学びました。子供たちは物語に興味を持ち、質問に答え、絵を描きました。みんなとても楽しんでいました。」アメリカ合衆国ペンシルベニア州スクラントンの初等協会指導者は、このように述べました。「わたしたちの支部は小さく、常任の教師がいません。これらのレッスンは短時間で準備でき、それでいて子供たちにとって効果的なものでした。」

ベネズエラ・カラカス・ロステケステークの指導者は、どのレッスンも教師が御霊に導かれて教えられるように柔軟性が保たれている点を評価しました。

「子供たちは指人形が大変気に入ったようです。子供たちに、自分たちの指人形を使って話をする機会を与えました。とても上手にできたので、きっと家庭の夕べでも一人でできるでしょう」と述べたのは、ユタ州

ウェストジョーダンの指導者です。「教え方のヒントも、とても役に立ちました」と彼女は付け加えています。

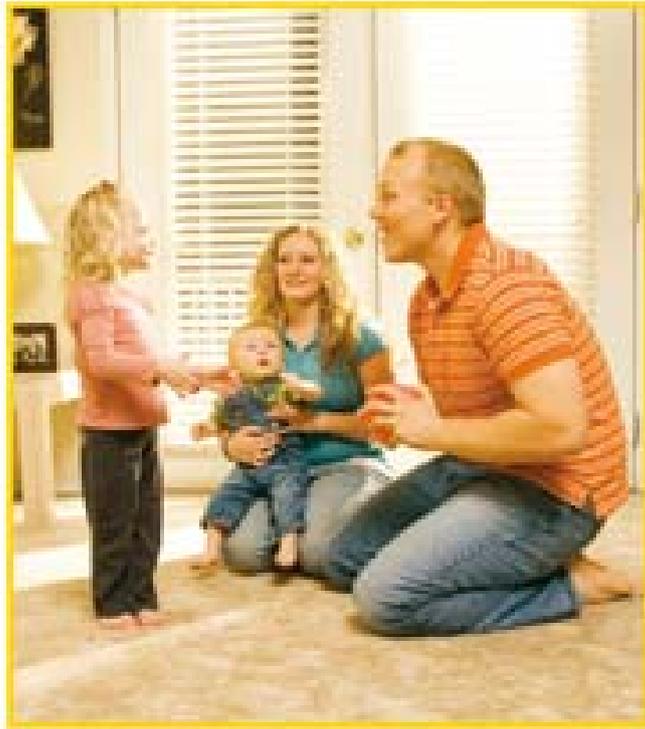
両親と託児指導者のために

両親や初等協会指導者にとって、託児年齢の子供たちの世話と教育をゆだねられることは特権です。これらの子供たちは能力があり、信仰に満ちています。信じやすく、学ぶ意欲があり、活動に喜んで参加します。そして愛ある雰囲気や福音の光の中で元気に成長します。

新しい初等協会託児の手引きは、靈感と証をもって用いるとき、世界中の両親と初等協会指導者がチャーリーやサムのような幼い子供たちにイエス・キリストの福音を教えるのに役立ちます。■

注

1. グレン・J・ドーマン、トーマス・S・モンソン「変化の時代にあって変わらぬ真理」『リアホナ』2005年5月号、19で引用



託児年齢の子供たちは、
愛ある雰囲気や福音の光の中で
元気に成長します。



「あなたがたの幼い子供たちを
見なさい」

子供たちに基本的な福音の真理を教えるために、託児教師や家庭の両親は、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』を使用することができます。





機能する家族

ブリガム・ヤング大学カウンセリングおよびキャリアセンターディレクター
ジェームズ・D・マッカーサー博士

親としてまだ経験の浅かったころ、教義と聖約第93章40節を読んだことを覚えています。この節で主はこう言われました。「わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。」当時わたしは「どうしたら、光と真理の中でしっかりと子供を育てることができるのだろう」と思いました。機能していない家族の話はよく聞いていましたが、機能する家族を築きたいと思いました。では、機能する家族とはいったいどのような家族でしょうか。

多くの人々は、機能する家族は皆いつも仲良しで、問題が起きても協力して解決していると思いがちです。しかし当然な

がら、「機能する」といっても、その家族が完全であるという意味にはならないというのが現実です。どの家族も、個性の違う人同士が暮らしていくうえで問題に直面します。しかし、よく機能している家族では、それぞれが弱点のあることを認めます。弱点があっても、お互いの関係を改善しようと努めています。確かに、個人として、また家族としての関係を強めるために、日々の生活で福音の原則を応用するように努めるとき、家族はより幸福になることができます。

長年の間、家族問題に関する専門のカウンセラーとして夫婦や家族と接しながら、よく機能する家族を築くうえで役立つと思われる、幾つかの原則を学んできました。ここでは、そのごく一部を採り上げます。皆さん自身で考えつく原則もあることでしょう。ここで紹介する原則を読み進めながら、皆さんの家族にどのように当てはまるか、少し考えてみてください。

機能する家族では、親は子供に正しい原則を教えること、また、子供に選択の自由を行使させることに力を注ぎます。父親として、また祖父として、わたしは子供や孫に正しい原則を教えるために、できる限り愛情をかけ、指導をし、時間を割き、関心を向け、助け、導きを与え、目を向けるよう配慮し、努力を重ねました。選択には良い結果と悪い結果の両方があるということも教えました。

時折、親であるわたしたちは、子供にこうあってほしいという期待があるため、知らず知らずのうちに監督者となって子供をコントロールしようとします。この方法の問題点は、子供が、特に年齢が上がるにつれ、抑圧や強制に対して反抗するということです。親はなるべく、監督者としてではなく、コーチ、相談相手、ガイドとして行動するようにすると、さらに効果的に教えることができます。つまり、子供に正しい原則を教え、子供の成熟度と経験に応じて、自ら選択して結果を刈り取る範囲を引き続き広げさせていくのです。

機能する家族では、親は意識して家族を強めています。つまり、定期的に、また個人的に、子供一人一人の必要を吟味し、家族全体の必要と照らし合わせて評価しているのです。

機能する家族とはどのような家族でしょうか。それは、困難に直面したとき、お互いの関係を強めるために力を合わせる家族です。

わたしたちの多くは、人生の問題に常に追われていると感じています。多忙なスケジュールや生活の要求に迫られると、自分の生き方や、家族の必要や要求にどうこたえるかを自発的に決めることが難しくなりがちです。そうなると、直面する状況にどう対処するかを、自分ではなく、周りの状況やほかの人々、あるいはそれまでの習慣によって決めてしまうこととなります。言うまでもなく、このような対処をしていると、充実感の得られない状況に身を置くことになり、自分の可能性を最大限に活かすことができません。

親として家族を強める最良の方法の一つは、毎週夫婦で特定の時間を取り、家族の状況について話し合うことです。わたしはこれを「家族のための話し合いの時間」と呼んでいます。話し合う時間を設けることで、伴侶ととも^{はんりよ}に家族の必要について定期的に振り返ることができます。また、自分や家族

が変わる必要のある事柄について考える時間にもなります。独りで子育てをしている場合は、毎週、家族について深く考え、祈る時間を取るとよいでしょう。

意識して家族の事柄に取り組むということは、自分が子供に何を言うか、または何を言わないかで、子供にどのような影響を与えるかを考えることでもあります。親は、子供が生まれた瞬間から、その子に抱いている気持ちを伝え始めます。意図しているかないかにかかわらず、そうしたメッセージは皆さんの言葉や、行動や、態度に表れます。子供はこれらすべてのメッセージによって自身に対する認識を形作っていくのです。

無意識であっても子供を無視したり、子供にいらだったりすることは、しばしば有害なメッセージの一つとなります。息



子や娘と過ごす時間を取れないほど忙しくしていると、「あなたのことはそれほど大切に思っていません」というメッセージを伝えてしまっているかもしれません。それでも、どうしても忙しいときはありますから、必要以上に自分を追い込まないでください。ただ、子供たちを教化するために意識して前向きなメッセージを送ること、そして自分がどのようなメッセージを伝えているかを折にふれて吟味し、必要に応じて調整することが重要だということは覚えておいてください。

意識して子供に伝えたいメッセージはどのようなメッセージでしょうか。愛し、心にかけていることを、子供に知ってほしくはないでしょうか。難しく思えても、事前に計画すると前向きなメッセージを伝えられることがよくあります。例えば、毎日子供が起きる前^{いろがみ}に出勤しなければならないとします。色紙で小さなカードを作り、起きた子供がすぐに見つけられるようにベッドの

柱にはったら、子供はどれほど驚き、喜ぶでしょうか。カードにはこんなメッセージを書いてもよいでしょう。「おはよう! 大好きだよ! 夕ごはんには帰るからね。夜は一緒に遊ぼうね!」このような前向きなメッセージを残すことで、力強く、色あせない影響をいつまでも及ぼすことができるのです。

機能的する家族は、家族関係を何よりも大切にします。家族一人一人について、お互いの関係がどのような状態にあるかを定期的にチェックするとよいでしょう。満たされるべき必要があるのに、何らかの理由で、その必要を子供が秘密にしているということがあるかもしれません。注意深く耳を傾け、御霊に敏感になることで、子供の状態や、子供が何を必要としているかを、より判断しやすくなるでしょう。

そうすると、次のような疑問が浮かぶことでしょう。——家族のだれかが、わたしとの関係、またはほかの家族との関係で助けが必要だと分かったとき、関係を改善させるためにどのような手助けができるだろうか。——わたしが学んだことの一つは、人間関係は通常、偶然に改善できるものではないということです。優先課題として取り組むときに、関係は改善するのです。

時間をかけ、分かりやすい方法で関係改善に努めましょう。わたしがこれまでに試したことで、皆さんに役立つものがあるかもしれません。一緒に話す。一緒に遊ぶ。一対一で時間を過ごす。愛を伝える手紙、カード、メモを書く。褒める。楽しくて、びっくりするようなことをする。「愛しているよ」と言う。相手の話を聞く。何かを達成するために君の力が必要だと伝える。自分が感じていることを伝える。これらのことは、皆さん自身が相手のしていることに興味を持っていなければできません。家族のための話し合いの時間のときに、自分がどのような努力をしているかを伴侶に話してください。自分の努力が与える肯定的な影響力の大きさに驚くかもしれません。

機能する家族において、親は熱心な教師です。アダムとエバは、親でありながら教師でもあった人としてのすばらしい模範です。例えば、「アダムとエバは……息子、娘たちにすべてのことを知らせた」とあります(モーセ5:12)。二人は子供たちに、救いの計画、戒めを守ることの大切さ、それによって得られる祝福といった福音の原則を教えました。わたしたちも、子供に、生きる術だけでなく福音も教えるという、アダムと同じ責任を受けています。子供の霊的な教育を偶然や他の人々に任せてしまうと、子供が真の幸福を得るうえで必要な事柄を学び損ねるという大きな危険を冒すことになります。

つまり、何をどのように教えるかを検討する必要があるのです。

す。例えば、家族のための話し合いの時間で次の質問をしてもいいでしょう。「これからの数か月間で、わたしたちは家族に何を教えたいだろうか。いつ、どこで、どのように教えたらよいだろうか。」この質問の答えを書き出して家族の目標とし、忘れないよう目立つ場所に掛けてみてはどうでしょうか。そして、達成するまで目標に取り組んでください。

ほかには何を教えられますでしょうか。家族が学ぶ必要があると思うことなら何でも教えることができます。いくつかの例を挙げましょう。礼儀正しさ、正直、祈り、聖文研究、財政管理と借金の完済、家族の中で互いに敬意を示すこと、時間の有効な使い方、怒りを制御する方法、教育の大切さ、家族の中で全員が自分の役割を果たす必要性。



形式にこだわったり、顔を合わせたりしなくても効果的に教えることは可能です。言葉を使わず、間接的に教えることができるのです。実際、「教える」ことは自分がその場になくてもできます。例えばわたしは、吹雪の中を進む開拓者の絵などを飾っています。困難なときでもあきらめないことを示す絵を見せることで、子供たちにそうした特質や人格について考えてもらいたいと思っています。また、我が家の居間の暖炉の上に、一人ずつ、29人の孫の写真を並べています。そこには何も書かれていませんが、写真を目にする人々は様々な感想を述べてくれます。必ず目に留まるからです。これらの写真は、孫たちが大切な家族であるというメッセージを伝えています。

機能する家族では、親は模範によって導きます。親は気づいていないかもしれませんが、子供は常に親の振る舞いを見

ています。観察しているのです。わたしは父親として、いつも次のように自問しながら自分の振る舞いを振り返るようにしています。「わたしは子供たちに、人前でも、独りであるときも父親の模範ならに倣うように勧められるだろうか。」もし「いいえ」と思うのなら、必要な修正をします。

わたしは次のような事柄を自問しています。

- 子供たちに忍耐強くなってほしいだろうか。なってほしい。だから、わたしも子供たちに対してできる限り忍耐強くなれるよう努めよう。
- 子供たちに、肩の力を抜いて、楽しみながら、喜びのある人生を送ることを学んでほしいだろうか。そうした特質は健全で幸福な人間関係を築くのにならぬかと思ってしまうので、学んでほしい。わたしはできる限り頻繁に子供たちと楽しい時間を過ごすようにしよう。
- 子供たちに聖文や健全な書物を読んでほしいだろうか。読んでほしい。だから、そうした本を読んでいる姿を見せ、子供たちにも読んで聞かせよう。
- 子供たちに、家族の関係は大切だと思ってほしいだろうか。思ってもらいたい。だから、彼らにキスをして抱きしめ、ほほえみ

恐らく、人生で行うべき最も大切なことは、イエス・キリストとキリストの教えを信じる信仰を持ち、戒めを守るよう家族に教えることです。「家族——世界への宣言」にはこうあります。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」¹ 言葉と模範によって、そして子供たちに証あかしを述べるときに訪れる御霊によって子供に正しい原則を教えてください。

自分自身や家族に対して忍耐強くあることを忘れないでください。たいていの場合、人間関係は突然にではなく、段階を経て改善されます。関係を強めるには時間と努力が必要です。しかし、天の御父とイエス・キリストの教え、そして主の回復された福音を土台として、機能する家族を築こうと努め



言葉 葉と模範によって、そして子供たちに証あかしを述べるときに訪れる御霊によって子供に正しい原則を教えてください。

かけ、耳を傾け、一緒に遊び、自分のことを話すようにしよう。子供は親に模範を示してほしいと願っています。霊的な事柄にも、個人的な事柄にも明確な方向性を持った人間の模範を求めていることを覚えておいてください。親であるわたしたちはいつでも、そして困難な状況のときは特に、聖霊の導きを受けるにふさわしく生活する必要があります。

最後に、機能する家族では、親は天の御父と主イエス・キリストを信じる信仰を子供に教えます。この信仰は、家族として生活するに当たって、ほかの方法では築き得ない確固とした揺るぎない土台を築きます。これは天の御父の戒めでもあります。子供に対する親の責任についてベニヤミン王はこう教えました。「あなたがたは、彼らに真理の道をまじめに歩むように教えるであろう。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであろう。」(モーサヤ4:15)

るなら、自分の家族に最高の機会を与えることができるでしょう。そうした機会を通じて家族はさらにきずなを強め、これまで以上に固い一致と幸福を感じながら困難に立ち向かうことができるのです。■

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49

世代

教会に入ったばかりの人も、
家族で何十年も教会に集っている人も、
福音に従って生活するなら
着実に強さを身に付けることができます。
そう話すのはグアドループ島に住む
末日聖徒の青少年です。

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

12 歳になるコラリー・「ココ」・ガミエットには、お気に入りの場所がたくさんあります。ラ・カスカドゥ・オー・エクルビスと呼ばれる滝もその一つです。西インド諸島に浮かぶグアドループ島で改宗した初期の教会員の多くが、ここでバプテスマを受けました。

ココは、この滝を見るとモルモン書に登場するモルモンの泉を思い出すと話しています。モルモンの泉は、「小さな木の茂み」がある「水の清らかな泉」という言葉で表現されています。アルマが教えたことを信じた450人は、モルモンの泉でバプテスマを受けました(モーサヤ18章参照)。

もちろん、世界中のほとんどの教会と同様、^{こんにち}今日グアドループ島でのバプテスマは礼拝堂のフォントで行われています。しかしココにとって、ラ・カスカドゥが心地よい場所であることには変わりありません。ここでピクニックをしたり、小川を歩いて渡ったり、涼しい日陰に座って、教会が自分の家族に与えてくれる受け継ぎについて考えたりしています。

フランスより愛を込めて

彼らが受け継いでいるものは、およそ20年前にフランスのアンゲーレムという町で起こった、少々込み入った物語にまでさかのぼります。導きを受けた専任宣教師が、この町でミシェル・メナルダンという男性と知り合いました。ミシェルはフランスの海外県であるグアドループ島の出身で、当時兵役に就いていました。彼は福音を受け入れ、バプテスマと確認の儀式を受けました。

同じ年、同じ町で、宣教師がある郵便受けに冊子を入れました。すると、クロディーヌという独身の母親が興味を持ちま

す。彼女はデルフィーヌという19歳の娘を育てていました。クロディーヌとデルフィーヌはどちらも証^{あかし}を得て、やはりバプテスマと確認の儀式を受けました。

ミシェルとクロディーヌは教会で知り合い、最高の夫婦になれると確信した二人は結婚します。(この二人がココの祖父母となるのです。)結婚式のためにアンゲーレムまで来ていたミシエルの母親マルテは教会のことをよく知るようになり、会員になりました。

後にデルフィーヌはワシントン州シアトルへの伝道の召しを受けます。伝道中、両親と祖母はグアドループ島に戻って行きました。伝道が終わると、デルフィーヌは3人のもとを訪れ、滞在中にクロード・ガミエに出会います。フロリダ州ジャクソンビル伝道部から帰還したばかりだったクロードは、支部会長だったデルフィーヌの義理の父親の顧問として奉仕していました。二人の帰還宣教師はデートをし、すぐに結婚しました。ココの両親は、このクロードとデルフィーヌです。それから14年後の現在、5人の子供をもうけたクロードはグアドループ地方



神聖な場所

モルモンの泉は、アルマから教えられ、バプテスマを受けた人々にとって神聖な場所でした。「モルモンの地も、モルモンの泉も、モルモンの森も、自分たちの贖い主を知るようになった人々の目には何と美しいことか。また、これらの人々は何と祝福されていることか。だから、彼らはとこしえに贖い主を賛美して歌うであろう。」(モーサヤ18:30)

聖文に登場する場所を思い出させてくれるような、お気に入りの場所はありますか。





部バス・テール支部の会長を務めています。クロードの家族も長年にわたって教会に集っています。

このようなわけで、ココは4代目の末日聖徒になります。彼女はこう話しています。「わたしは教会の中で育っています。生まれてからずっと教会について教えられてきました。初等協会に通い、今は若い女性に参加しています。両親、祖父母、そして曾祖父母の証を聞いてきました。福音が真実であることを一度も疑ったことはありません。モーサヤ書の中で、アルマは信じた人々にバプテスマを施しました。彼らが交わした約束について読みますが、わたしは自分の人生でこの約束を目の当たりにし、感じています。」

ココは、家族というものは母親や父親やその子供たちを超えて広がるものだという曾祖母の言葉を覚えています。「曾祖母は、家族は世代を超えて永遠から永遠に広がると話しています。わたしの家族でも同じことが起こっています。」

少しずつ、^{きょう}今日も明日も

グアドループの別の場所に目を向けてみましょう。首都バス・テールに住む13歳のルイージア・デュフロと17歳になる姉のステラ・デュフロの家族では、教会の受け継ぎは2代にわたっています。二人は2年前、姉や弟、両親と一緒に教会に入りました。彼女たちは、福音によって母親と父親を敬うことを学んだと話しています。家族は、父親の経営する小さな店の上にあるアパートで

暮らしていて、二人はそこで開く家庭の夕べを特に楽しみにしています。店では家庭用品、砂糖、香辛料、キャンディー、肉を売っています。二人は、店の裏にある事務所で父親と話するのが好きです。ここには、壁一面に末日聖徒の神殿の写真がたくさん飾られています。

ステラはこう話しています。「仕事の用で入って来る人は、この建物は何なのかと知りたがります。だから、父にとってはちょっとした伝道の機会になっています。それに、父は神殿の写真を見て、永遠の約束と目標を日々忘れないようにしているのだと思います。それはまた、わたしたちのためにもなっています。父は、わたしたちが神殿に行く準備をするべきだということを絶えず思い起こさせてくれます。」

デュフロ家族は明るい未来を見据えています。「教会はグアドループ島でこれからも発展し、繁栄するでしょう。すべてにおいて主を信頼し、できる範囲で常に福音を伝えるようにしながら、少しずつ、今日も明日も、自分のできることを行っていけばいいのです」とステラは話しています。

セミナーとゴリアテ

15歳のエオル・モンルドンはまだ教会員ではありませんが、学校のある日は毎朝セミナーにやってきました。「いろいろな意味で、生まれてからずっと会員でいるような感覚です。教会や教会員の近くで育ち、福音にも慣れ親しんでいるからです」と彼女は話しています。

セミナーに来るのが大好きな理由について、彼女はこう話しています。「暗いうちに起きなければなりません、若いときから一緒に聖文を学ぶのは良いことです。」セミナーは午前6時に始まるため、彼女は5時に起きています。「わたしを変わり者だと思っ友達もいますが、セミナーでどんなことをしているのかを説明すると、悪いものではないと分かってくれます。それに、セミナーに行くと聖霊を感じます。良い気持ちを一日中保つことができるのです。」

聖書の物語の中で、エオルはダビデとゴリアテの話が気に入っています。彼女は時々、ゴリアテほど大きく見える困難に直面します。この話を通して、自分が小さくても、主の助けによって大きな問題に打ち勝てるのが分かり、勇気がわいてくると話しています。エオルの両親は別居しています。母親は熱心に教会に集っていて、エオルが末日聖徒になることを望んでいますが、父親からは待つようにと強く言われています。そこでエオルは父親の意見を尊重し、待っています。辛抱強く福音に従った生活をしながら、いつか父親の心が変わるように祈っているのです。

上から——
**セミナーに通う
 ルイージア、トラビ、エオル、
 レスリー(右ページ)は、
 一緒に楽しく
 福音を学んでいる。
 ココ(前ページ)は
 福音が
 家族を強めてくれることを
 知っている。**



彼女はこう話しています。「教会の青少年に何か伝えられるとしたら、平日に毎日セミナーに参加し、毎週日曜日は教会に来てほしいと言いたいです。そうすればするほど、セミナーと教会が素晴らしいものであり、自分が強くなっていくのがさらに分かるからです。」教会での何世代にもわたる受け継ぎは、今のエオルにはまだありません。しかし、これから続く世代にとっての受け継ぎを築くため、彼女は自分が今努力できるということを理解しています。「今始める必要があるのです。忠実であり続けるならば、素晴らしいことが起こります。」

早朝に心を改める

アビムで行われている早朝セミナーのクラスでも、着実に強さを身に付けたいという願いがはっきりと感じられます。クラスの参加者は、先を競って参照聖句を探し、熱心に黒板に絵を描きます。教師が質問をすれば、いつもたくさんの手が挙がります。

「セミナーのおかげで神様をもっとよく知ることができます」と話すのは、14歳のトラビ・デパールです。「今伝道をして、将来の専任宣教師になる備えをするうえでも役に立っています。神の御言葉を研究し、学びます。すると、すっきりとした気分です。学校に行き、頭の中は良い思いでいっぱいになります。セミナーを通して心が改まるのです。」

心が改まるという言葉には「霊的に生まれ変わる、または改心する」という意味があります。また、「より良く、より高く、よりふさわしい状態に回復される」という意味もあります。トラビは、神権による奉仕によっても心を改めることができると話しています。「わたしも家族も祝福されています。神権者として奉仕をすることで、家族を含め、周りの人々を助けることができます。そうすると、幸せな気持ちに満たされます。」

15歳のレスリー・アムスガはこう言っています。「天のお父様を信頼するなら、祝福を受けることができます。御父はいつでも道を備えてくださっていることを知っています。疑わず、信仰をもって戒めを守るなら、御父はわたしたちに日の光を与えてくださいます。」言い換えれば、御父は、世代から世代にわたって、わたしたちが心を改められるよう助けてくださるのです。■

レスリーがセミナーに行く理由



「太陽よりも早起きするのも、友達と会えるのも良いことだと思います」と話すのは、アビム支部に集う15歳のレスリー・アムスガです。

しかし、そこにはただ友達と会える以上のものがあります。「セミナーでは、家にいて独りで研究するより、もっと深く聖典を研究します。皆と一緒に研究するとき、たくさんの良いことを学びます。また教師は、

皆が学べるように助けたいと心から願い、生徒が独りでは完全に理解できないような事柄を説明してくれます。こうした教師のおかげもあって、たくさんの良いことを学ぶことができます。」

セミナーは学校でも役立っています。セミナーに行くために早起きをするからです。中にはまだ寝ぼけている生徒もいますが、わたしはすっきりとした頭で、元気に学校に到着できます。セミナーのおかげで良い習慣を身に付け、自分を鍛えることができます。勉強を頑張れるようになり、早起きを続けるといった小さな事柄に熱心に取り組めるようになります。」



宣教師としての 真の目的

デニス・パーファス

わ たしのたった一人の妹が婚約したという知らせが届いたのは、アルゼンチンで専任宣教師として働きだしてまだ2か月のときでした。レベッカとわたしは仲良く育ち、お互いの結婚식을夢見ていましたが、そのときのわたしは彼女の結婚式に出るわけにはいきませんでした。

両親は結婚式の計画や写真、料理のメニューやスケジュールなどを送ってくれましたが、わたしは遠くにいて、取り残されているように感じました。伝道活動は困難で遅々として進みませんでした。家から遠く離れた地で自分は一体何をしているのだらうと考え込んだり、自分が達成すべきことは何なのか思い悩んだりするようになりました。

しかしながら、わたしは主が自分を奉仕するよう召してくださったと確信していました。また、祈りと神権の力について強い証あかしがありました。そして、慰めを得させる神権の祝福を受け、自分はいるべき場所にいるのだとはっきりと知ることができました。

わたしたちは宣教師として、よくモロナイ書第10章4節から5節にある勧めを紹介しました。キリストの御名みなによって永遠の父なる神に問うなら、聖霊の力によってすべてのことの真理を知ることができるというこの節の約束を固く信じていました。家に残って妹の結婚式の準備を手伝う代わりに、アルゼンチンに来たことは正しかったか



人の
—— 若い男性が
わたしたちに
声をかけました。
その男の人を
無視しましたが、
彼がもう一度
呼んだとき
返事をするべきだ
という促しを
受けました。

近づくにつれ、祈りはより切実なものとなりました。慰めを与える御霊みたまの影響を強く感じましたが、それでもまだはつきりとした答えを望んでいました。

結婚式の2週間前、同僚とわたしは当時伝道していた支部の会員との昼食の約束を終えて、歩いて帰宅する途中でした。支部はアルゼンチン中部の小さな町にあり、そこではシエスタと呼ばれる昼寝の習慣がありました。一日のうちのその時間帯はたいてい迎りにはだれもいませんでした。

しかし歩いていると一人の若者がわたしたちに声をかけました。若者たちはよくわたしたちをからかうので、その男の人を無視して歩きました。彼がもう一度呼んだとき返事をするべ

どうかを知るために熱心に祈りました。彼女の結婚式が

きだという促しを受けました。

オラシオというこの若者は、彼のいとこと一緒にモルモン書を読んでいる若い女性たちとわたしたちが友達かどうか知りたがっていました。彼は、わたしたちと同じ支部で伝道する姉妹宣教師たちがモルモン書を読んでいる姿を見て、何か特別なものを感じたそうです。そして自分が教会に行ってもいいか尋ねたかったのです。

地元の会員の助けを借りてオラシオを教えるにつれ、彼はみるみる福音を愛するようになりました。福音によって成長し、彼は生活を変えましたが、家族は反対し友達も彼を拒みました。それでもオラシオは主の愛を感じ、主に従いたいと望んでいました。オラシオを教えるのは伝道中の経験の中でも特別なものでした。

わたしの家族がカリフォルニア州オークランド神殿で、日の栄えの王国への備えとなる儀式を受ける妹を見

守っていたちょうどそのとき、わたしはアルゼンチンのゼネラルピコの小さな礼拝堂で、オラシオが最初の救いの儀式であるバプテスマを受けるための面接を終えるのを待っていました。妹はわたしが助けなくても儀式の準備ができましたが、オラシオは独りでは準備できなかったかもしれません。彼は同僚とわたしから福音を学ぶ必要があったのです。そしてわたしには、人々をキリストに導くという宣教師としての真の目的を思い出すために、彼が必要だったのです。

わたしの伝道が終わりに近づきアルゼンチンを離れる準備をしていたとき、オラシオは自身が伝道に行く準備をしていました。彼を通して天の御父はわたしの祈りにこたえてくださり、そしてまだ見ぬほかの人の祈りにこたえるためオラシオを送り出されたのです。■

彼はきっと来てくれる!

ポール・カルバート

ある土曜日の朝、友人から1本の電話を受けました。彼女はわたしと同じ、イングランドのウィルトシャー州にあるワードのヤングシングルアダルトです。彼女の継母はわたしと同じ村に住んでいるのですが、自宅で病床に伏しており、ほとんど床から出ることができない状態にあ

りました。友人は、継母は教会の会員ではないが、彼女に祝福を授けることはできるかと尋ねてきたのです。

わたしは数か月前に教会の会員になったばかりでしたが、神権会での訓練のおかげで、少々不安はあるものの、祝福をするのにふさわしい準備はできていると感じました。そこで、「同僚を見つけてできるかぎり早く行きます」と伝えました。

最も近くに住んでいるワードの長老のことがすぐに頭に浮かんだので、彼の家まで車を走らせました。対応に出た彼の奥さんとの話で、エンダウメントを受けているスウィンドンワードの兄弟たちは皆、その日、神殿参入に出かけたことを思い出しました。少々気落ちしながらも彼の家を後にしたわたしは、車を止め、指示を与えてくださるよう天の御父に祈りました。

祈りの中で、一緒に行ってくれるメルキゼデク神権者がいないかどうか尋ねました。すると、スチュアート・ラムジーの名前がすぐに心に浮かびました。彼の電話番号は知りませんでしたが、彼と奥さんのジルは6マイル(約10キロ)ほど離れた空軍基地に住んでいました。

彼らの家に着くとすぐに、スチュアートが自分と一緒に来てくれるだろうという確信に満ちてドアをノックしました。しかし、驚いたことにジルの返事はこうでした。「あいにく彼はここにいないのよ。どうしても基地に行く必要があつて。」

それでもめげることなく、彼と何とか話ができないかと尋ねました。彼女は、機械整備士

彼と一緒に
行けない
のなら、
なぜスチュアートの
助けを求めよう
強い印象を
受けたのだろう、
と思いました。



であるスチュアートが基地の部外者立ち入り禁止区域で友人の車を直していることを説明してくれました。彼と電話で話すこともできなければ、防犯ゲートを通してもらえないだろうということでした。

彼と一緒にいけないのなら、なぜスチュアートの助けを求めるよう強い印象を受けたのだろう、と思いました。祈りに対する答えを取り違えたのでしょうか。「いや、彼はきっと来てくれる!」と自分に言い聞かせました。

まさにそのとき、背後から陽気な声が聞こえました。「ポール、ここで何をしているんだい。」スチュアートでした。彼は友人の車を直すのに手間取っていましたが、家に戻るべきであるという強い印象を受けたとのことでした。自分の困った状況を説明すると、彼は祝福を施す手助けを喜んで引き受けてくれました。

スチュアートとのこの経験に心から感謝しています。彼が油を注ぎ、わたしがそれを結び固めると、癒しに伴う祝福の言葉をどのように宣言すべきか促しを感じました。スチュアートを車で家まで送っているとき、彼は、家にいるわたしに会えるように職場から帰宅するよう御霊に導かれたことを喜んでいました。

翌朝、友人の継母がとても具合がよくなったと聞いて、さらに喜びは増しました。以来、多くの場面で祝福を施してきましたが、神権の務めを果たすことに関する教訓を早い時期に学べたことに感謝しています。どんなに経験が浅くても、主に頼り、主の戒めを守り、召しを尊んで大いなるものにするために最善を尽くすなら、主はわたしたちを行くべき道に従って導かれるのです。■

長老たち、 乗って行きませんか

エロル・フェルナンド

バスを運転してオーストラリアのビクトリア州内を回る長い一日が終わり、夕方の道を最後の行き先である自宅に向かっていくときのことでした。ふと、きちんとした身なりの青年が二人歩いているのに気づきました。バスを止めて、乗って行かないか尋ねてみることにしました。

どうして名札を付け、ワイシャツとネ

クタイを着用しているのかと尋ねると、自分たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であると一人が答えました。どのようなことをしているのかをいろいろ尋ねているうちに、バスの中に何かが満ちてくるのを感じました。後になって分かったのですが、それは聖なる御霊でした。わたしがイエス・キリストについてもっと話してほしいと頼むと、それにこたえて彼らは話してくれました。そのメッセージにわたしは感動を覚えました。

しかしもう遅い時刻になっていたので、ダンデノンで宣教師たちを降ろしました。後で彼らの電話番号を聞かなかったことに気づき、残念でなりません。それからというもの、彼



宣教師たちに
どのような
ことを
しているのかを
いろいろ
尋ねているうちに、
何かを感じました。
後になって
分かったのですが、
それは
聖なる御霊でした。

らと再会できるように何週間も祈りました。定期バスを運転している間も、彼らを捜していました。数か月が過ぎ、わたしの誕生日の2002年8月19日に信じられないことが起きました。

妻のカメラと昼食を取っていたとき、ドアをノックする音が聞こえました。妻が返事をする、聞き覚えのある声が聞こえてきました。何と、バスに乗せたあの宣教師たちでした。わたしが驚いたのと同じように、彼らも驚いていました。近所で伝道をしていて、我が家に導かれたのです。こうして、わたしの祈りはこたえられました。

わたしたち夫婦は、ジェーン・フランゼン長老とジェームズ・シーラー長老からすぐに福音を学び始めました。モルモン書と預言者ジョセフ・スミスについては初耳でしたが、わたしたちは二人ともクリスチヤンの家庭に育ったので、福音についてはよく理解できました。学んだことについて祈り、よく考えるよう宣教師から勧められました。それを実行すると、御霊を感じ、教会に出席したいと願うようになり、やがて、バプテスマを受けるようにという促しを感じました。それからずっと、祝福された生活を送っています。

あれから数年がたちますが、わたしは今もバスの運転手をしており、宣教師たちをバスに乗せています。あのときとの違いは、宣教師に人々を紹介したり、乗客にモルモン書や教会の資料を渡したりして伝道活動を助けていることです。

バスの乗客はとても幸せそうなわたしに気づいてくれます。その訳を聞かれると、ただこう答えます。「神様がそうしてくださったのです。神様はあなたの人生も変えてくださいますよ。」■

飲んでみませんか

エレナー・F・ウィリアムソン

夫とともに教会に入って間もないころ、わたしたちは休みを取ってバミューダへ旅行に出かけました。滞在中、ホテルで開かれた午後の社交パーティーに参加しました。おいしそうなケーキに目を奪われていると、かすかな紅茶の香りが漂ってきました。まるで「飲んでみませんか」としきりに誘っているかのようでした。

バプテスマを受けてからずっと知恵の言葉を忠実に守っていたので、心の中でこう言いました。「いいえ、要りません。」

すると、「いいじゃないですか」となだめるような声が返ってきたように感じました。「この中に知っている人はだれもないし、家からも遠く離れているのですから。」

わたしは心の中でさっぱりとこう答えました。「いいえ、要りません。」

再び、説きつけるように誘惑する声が聞こえました。「だれにも絶対に分からないから。」

わたしは動じることなく答えました。「わたしが知っています。」

そのときわたしは、紅茶を注いでいるウェ이터の横に立っていました。毅然としてその場を離れました。腰を下ろす場所を探していると、だれかがわたしの名前を呼んでいることに気づきました。驚いたことに何年も会っていない以前の職場の上司が、にこにこしてこちらを見ていました。やって来た彼と一緒にテーブルに向かって歩き始めると、こう言われ



再び、
説きつける
ように
誘惑する声が
聞こえました。
「だれにも絶対に
分からないから。」

ました。「モルモンの教会に入ったそうだね。どんな教会か教えてくれないか。」

わたしは福音の原則や、末日聖徒イエ

ス・キリスト教会の会員として味わっている幸せ、そして証を分かち合えたことに喜びを覚えました。かつての上司は家系を調べていて、何代にもわたる家族歴史の記録を集めてきたことを話してくれました。そして、教会についての説明に深い関心を示してくれました。話している間、御霊が強く注がれるのを感じました。

話しているときにわたしはこう思いました。「もし、さっき紅茶を飲んでいたらこのような話し合いができたのだろうか。」わたしはその答えを知っていました。もし、誘惑に負けていたら、忘れることのできない霊的な経験と、証を分かち合う機会を逃していたことでしょう。■

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立つことができます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「たやすいことではありません」 16ページ——家族に、主がこれまで自分たちをどのように助け、祝福してこられたかを、1枚の小さな紙にそれぞれ書いてもらいます。感謝の瓶を作って、その紙を瓶の中に入れます。主が助けてくださったときにはいつも、そのことを書いてこの瓶に入れる(または自分の日記に書く)よう、家族を励まします。

「新しい改宗者として実りを得る」 22ページ——新会員であるかどうかを問わず、教会員同士の友情をはぐくむことは大切です。自分のワードや支部の会員に手を差し伸べる方法を家族で話し合しましょう。このような関係を強めることにより、永続する友情が生まれ、人に奉仕することを通じてキリストに近づけることを説明してください。



「だれにも分からないよ」 28ページ——「だれにも分からないよ」という言葉の裏にはどのような意味がありますか。その考え方が間違っている理由と、家族が誘惑を退ける方法について話し合みましょう。誘惑の例を挙げ、誘惑にどのように対処するか家族に演じてもらってください。それから、コリント人への第一の手紙第10章13節を読みましょう。

「世代」 40ページ——あなたの改宗談か、最初に福音を聞いた先祖について話してください。自分の生活の中でなぜ福音が大切か話すよう家族に勧めてください。

「活動の日への招待」 F10ページと**「宣教師に今なれる」** F14ページ——この二つの記事を読んだ後で、教会の集会か活動に招待できそうな人について考えてみましょう。近所に住んでいる人、友達、親戚の名前を挙げて、リストにします。興味を持たないかもしれないと思う人の名前も挙げてみま

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略 証, 2, 8	新会員, 18, 22 神権時代, 10
アダムとエバ, 10, F8	神権の祝福, 45, F2, F6
イエス・キリスト, 2, 10	スミス, ジョセフ, 2, 7, 8, F6
一致, 7	聖約, 10
祈り, 44, 45	全員が会員というわけでは ない家族, 16
癒し, F2, F6	託児, 32
教え, 教えること, 32, 36	知恵の言葉, 26, 47
親, 36	定着, 18
改宗, 改心, 16, 18, 22, 40, 44, F13	伝道活動, 44, 46, 47, 48, F10, F14
回復, 2, 8, 10	友達, F10
家族, 16, 36, 40, F4, F8, F16	仲間からの圧力, 26, 28
活発化, 18	訪問教師, 25
神の特質, 10, 25, F8	ポルノグラフィー, 15
儀式, 44	誘惑, 26, 28, 47
最初の示現, 2, 8	預言者, 10
従順, 26, 28, 47	靈感, 45
身分 <small>しんぶん</small> の一, 28	
女性, 25	
初等協会, 32, F4	

しょう。だれが受け入れるか分かりません。集会や活動の前に、招待する人々をよく祈りながらリストから選び、一緒に参加してくれるよう招きます。一緒に歩いて行くことや、車で迎えに行くことを提案します。彼らが参加することを選ばなくても、変わらずに友情をはぐくんでいきましょう。

家庭の夕べの招待状

12年前にバプテスマを受けてから、わたしの生活はがらりと変わりました。そこで、主人とわたしは、わたしたちが受けた神の光を多くの人々に分かち合おうと決意し、家庭の夕べに宣教師と近所の人たちを招待するようになりました。わたしたちは近所の人のために小

さな招待状を作りました。参加した多く人は、家庭の夕べとはどのようなものだろうと興味を持っていました。人によって興味の度合いは違いましたが、ほとんどの人が、活動と軽食を楽しんでくれました。そして招待した中の一家族は、何とバプテスマを受けたのです。

家庭の夕べの中で、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることの喜びを話すにつれて、わたしの信仰は大きく強められていきます。

コロンビア、アンティオキア
グラディス・エレナ・イエベス・デ・ベラスケス

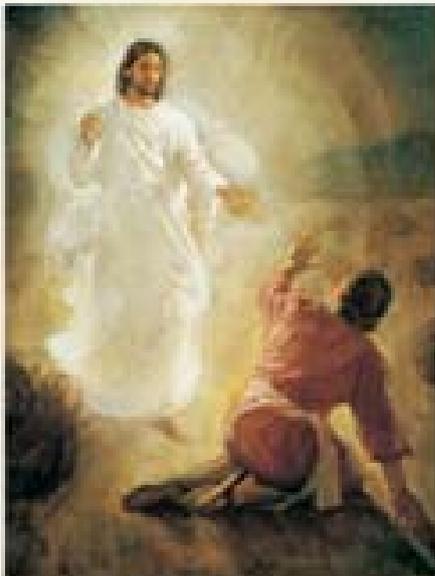
あなたの大好きな家庭の夕べ

あなたが大好きだと感じる家庭の夕べはどのようなものかを書いて、liahona@ldschurch.org までお寄せください。



「わたしの子」 ジョン・マクナートン画

「〔イエス〕は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあつた。」
(ルカ2:40)



「長きにわたって
聖なる預言者たちを通して
与えられてきた主の言葉は、
主が備えてくださった計画の中で
わたしたちを導いてくれます。
もしふさわしく生活するなら、
時の初めから
来るべき永遠の世において
主とともに住む機会を得るときまで、
主の計画は完全なのです。」
L・トム・ペリー長老
「神の偉大な計画」10ページ参照

